

2026（令和 8）年度入学生用

国際基幹教育機構 開設科目要覧

（学部・学域生用）



大阪公立大学

国際基幹教育機構

目次

ページ

I.	基幹教育の目的・理念・目標	1
II.	履修要項	
1.	国際基幹教育機構 開設科目とは（授業科目の種類）	3
2.	学年・学期・授業期間等	3
3.	授業時間	4
4.	授業科目の単位、単位制	4
5.	履修課程と履修上の注意	5
6.	科目ナンバリング	6
7.	履修登録	7
8.	成績評価・試験	8
9.	成績評語と GPA 制度・CAP 制	9
10.	外国語科目（英語）の単位認定および（初修外国語）入門初級履修免除制度について	10
11.	定期試験受験心得	11
12.	成績評価についての異議申立	11
13.	休講・欠席について	12
14.	修学上の配慮・支援	12
15.	教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入	13
16.	生成 AI の利活用に関する学生向けガイドライン	13
III.	科目の紹介・科目一覧	
1.	総合教養科目	15
2.	ゼミナール科目	20
3.	情報科目	29
4.	外国語科目（英語・初修外国語）	30
5.	特例科目	38
6.	健康・スポーツ科学科目	41
7.	基礎教育科目	42
IV.	履修に関するその他の情報	
1.	Q&A	48
2.	キャンパスマップ・フロアマップ	50
3.	相談窓口	50

I. 基幹教育の目的・理念・目標

I. 基幹教育の目的・理念・目標

大阪公立大学が社会から求められ、また社会に提示すべき教育は、以下に示すような能力を備えた人間を育てることであり、国際基幹教育機構ではこれらの能力を身に付けることのできる科目体系を整備しています。すなわち、「教養」「専門的能力」「情報収集・分析力」「行動力」「想像力」「自己表現力」に加えて、確かな論理的な能力と豊かな感性、他者と社会に対する共感と倫理的態度を育てることです。これらの能力を身に付けて社会の中でそれを発揮できる人間の育成を行うために、基幹教育が目指す目的・理念・目標を次のように定めています。

多くの大学において、入学後の初期段階の教育を「初年次教育」「教養教育」「全学共通教育」などと明示する中で、大阪公立大学ではそれを「基幹教育」と称しています。その理由は、我が国の初等中等教育（留学生においては海外の同等課程）から接続した教育としての高等教育への展開、生涯にわたり継続的・発展的な学修を行う態度を身に付けることの実現、世界市民として活躍するために当然に備えるべき教養および専門教育に向けた体系的な準備学修を行うという意味、学士課程教育の大きな基となり教育体系の重要な幹の要素をなすものという意味を込めているからです。

入学後の初期段階での教育については、すでに多くの大学がそれぞれの大学の理念に沿ったカリキュラムでの実現あるいは実現への努力をしていますが、大阪公立大学においても、学生の入学後直ちに実施することとなる「基幹教育」をいかに実施し、この共通の土台から専門教育へと繋げていくかは、大学教育全体の根幹をなします。

そもそも従来の「教養」という言葉は、世界のそれぞれの文化において、漢詩や古代ギリシャの文化などを基礎として、人文科学、社会科学、自然科学、技術など幅広く積極的に理解すること、また学ぶもの自身の成長を指し示すものでした。しかしながら、現在では身に付けるべき「文化」は一つではなく、成長するのは自分一人ではありません。大学は、異なる文化や社会、またそれぞれに属する個人を含めてともに

成長する場であり、異なる文化や思想がぶつかりあう社会において、自ら属する文化への深い理解に根ざしながらも、より実践的な倫理的態度・志向性と他者への共感を持ちながら、全ての文化に共通する「知」である論理的能力あるいは創造的な感性を手がかりとして、待ち受ける世界の課題に挑戦できる能力こそが、大阪公立大学の基幹教育で行う「教養教育」です。

すなわち「地域に根差し世界に羽ばたく人の育成」を志向する、多様な世界に通用する新たな教養教育こそが、大阪公立大学の基幹教育の理念です。この理念を達成するために、基幹教育は「教養」「専門的能力」「情報収集・分析力」「行動力」「想像力」「自己表現力」などの能力を身に付けて社会の中で発揮できる人間、また卒業後もなお自律して学び続ける姿勢をもち、確かな論理的能力と豊かな感性、他者と社会に対する倫理的態度を持った学生を育成するための入学後の初期段階を中心とする教育の提供と実施を行うことを目的とします。

II. 履修要項



II. 履修要項

1. 国際基幹教育機構 開設科目とは（授業科目の種類）

大阪公立大学の授業科目は、基幹教育科目、専門科目、資格科目および副専攻科目に区分されています。国際基幹教育機構では、下表のように、基幹教育科目、資格科目および副専攻科目の一部を開講しています。

基幹教育科目は主に1年次・2年次において学び、多くの専門科目は2年次以降に学びます。全学部・学域に共通した基幹教育科目は総合教養科目、ゼミナール科目、情報科目、外国語科目、特例科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれます。詳しくは、「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認してください。

科目区分および開設部局

科目区分		開設部局	
基幹教育科目	総合教養科目	国際基幹教育機構	
	ゼミナール科目		プロジェクト
			高年次ゼミナール
			初年次ゼミナール
	情報科目		
	外国語科目		英語
			初修外国語
	特例科目		日本語
健康・スポーツ科学科目			
基礎教育科目			
専門科目		各学部・学域	
資格科目	教職科目	国際基幹教育機構※	
副専攻科目		各学部・学域 国際基幹教育機構	

(1) 専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択・自由科目の区分は、各学科・学類の標準履修課程表を参照してください。

(2) 資格科目の履修については『教職課程の手引』、副専攻科目については『副専攻ガイド』を参照してください。

※ 資格科目の授業科目は、国際基幹教育機構が開設するほか各学部・学域が開設する場合があります。

2. 学年・学期・授業期間等

学 年：4月1日～翌年3月31日

学 期：前期…4月1日～9月23日 後期…9月24日～翌年3月31日

休業日：

- ① 日曜日および土曜日（授業調整日除く）
- ② 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（祝日授業日を除く）
- ③ 春季休業 3月20日から4月7日まで
- ④ 夏季休業 8月10日から9月23日まで
- ⑤ 冬季休業 12月24日から1月7日まで
- ⑥ その他学長が必要と認めた日

詳しい授業期間および試験期間等は、各年度当初に定められる「学事日程」によります。「学事日程」は、毎年度、本学 Web サイト（ホーム＞教育・学生生活＞授業・履修＞学事日程・授業関係）などで確認してください。ただし、担当教員が必要と認めたときは、その他の期間に授業や試験が行われることがあります。

3. 授業時間

時限	時間
1 時限	09:00-10:30
2 時限	10:45-12:15
3 時限	13:15-14:45
4 時限	15:00-16:30
5 時限	16:45-18:15

4. 授業科目の単位、単位制

大学における授業科目の単位においては、1 単位の授業科目を **45 時間の学修***を必要とする内容をもって構成することを標準としています。単位の計算方法は、授業の方法（講義・演習、実験・実習）に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮しておおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算します。

国際基幹教育機構開設科目においては次に掲げる基準により単位数を計算します。**各科目の授業の方法および単位数の詳細は、「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認してください。**

科目区分	授業の方法	1 単位あたりの授業時間数	単位数
総合教養科目	講義	15	2
ゼミナール科目	演習	15	1～2
情報科目	演習	15	2
外国語科目	演習	15	2
特例科目	演習	15	2
健康・スポーツ科学科目	講義	15	2
	演習	15	2
基礎教育科目	講義・演習	15	2
	実験	30	1
資格科目	講義・演習	15	1～2
	実習	30	2～4

(例)

授業形態	学修時間数	単位数
講義・演習	授業時間 30 時間（毎週 2 時間 15 週）	2 単位
	事前事後学修 60 時間（毎週 4 時間 15 週）	
実験・実習	授業時間 30 時間（毎週 2 時間 15 週）	1 単位
	事前事後学修 15 時間（毎週 1 時間 15 週）	

大学において1単位の修得には「45時間」の学修が必要であり、その際の「1時間」は実際の「45分」に相当します。すなわち、「2時間」は90分授業（1時限）に相当します。

したがって、2単位の修得には、毎週「2時間」の講義の前後に事前学修（予習）と事後学修（復習）をすることが前提となっています。この前提に基づいて、授業では多くの課題（宿題）が課せられることがあります。大学では、常に事前・事後学修を行いながら授業を受けることが履修の基本であることを忘れないでください。

5. 履修課程と履修上の注意

(1) 基幹教育科目…詳細は「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」に記載しています。

基幹教育科目は、総合教養科目、ゼミナール科目、情報科目、外国語科目、特例科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれています。

(2) 専門科目…詳細は各学部・学域等の『要覧』を参照してください。

専門科目においては、各学部・学科、学域・学類の専門科目に加えて、学部・学域によっては共通科目を置き、それぞれの学問分野で共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の修得等を目指します。専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択・自由科目の区分は、所属学科等の標準履修課程表を参照してください。

(3) 資格科目…詳細は『教職課程の手引』を参照してください。

教育職員免許状の取得に必要な教職科目を資格科目といいます。この科目の単位は進級要件や卒業要件の所要単位に含めることはできない場合があるので注意してください。教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程に関する説明会に必ず出席し、『教職課程の手引』等を熟読してください。

(4) 副専攻科目…詳細は『副専攻ガイド』を参照してください。

副専攻とは、学生が所属する学部・学域の主専攻に加え、その区分を越えて主体的に興味、関心のある分野を学修する制度です。副専攻のために特別に開設した科目を副専攻科目といいます。

(5) 必修、選択および自由科目の区分

科目は必修、選択、自由科目の種類に区別され、各学部・学科等の定める要件を満たして履修する必要があります。

- 「必修科目」…所属学科・学類等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目。
- 「選択科目」…学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目。（選択必修科目を含む。）
- 「自由科目」…履修できるが卒業要件に算入しない科目。

(6) 遠隔授業について

一部授業は、授業支援システム (Moodle) 等によりオンラインで行うことがあります。

(7) 集中講義について

週1回の授業ではなく、短期間で授業を行う集中講義を開講することがあります。集中講義の開講日については、学生ポータル (UNIPA) により事前に周知します。集中講義の履修登録については、それぞれ前期・後期の履修登録期間中に登録してください。履修登録期間の時点で希望する集中講義の開講日が未定の場合でも、履修希望者は必ず履修登録をしてください。

(8) 履修に関する相談について

① オフィスアワー

各授業担当教員は、オフィスアワーを設定しています。これは、指定された曜日・時間には、事前に予約なしでも学生が教員のところに訪問し、履修に関することや授業中の疑問などを解決するための相談ができる時間のことです。なお、メールまたは授業支援システム (Moodle) 等で対応する場合がありますので、各授業のシラバスを参照し、大いに活用してください。

② その他相談窓口について

国際基幹教育機構開設科目については、本要覧やシラバスを参考にし、不明点等は森之宮学務室教務担当に相談してください。履修全般に関することについて相談等がある場合は、各学部・学域教務担当または担当教員等に相談してください。

(9) 科目名称

科目名称の末尾に数字あるいは英字等の表現がある科目は、以下のルールに基づいています。

- 「〇〇論 1、2～」: 科目内容に順序性がある科目群について使用します。ただし、必ずしも「1」の履修が「2」の履修の前提条件になっているとは限りませんので、履修にあたっては「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認するようにしてください。
- 「〇〇論 A、B～」: 科目内容に順序性がない科目群について使用します。

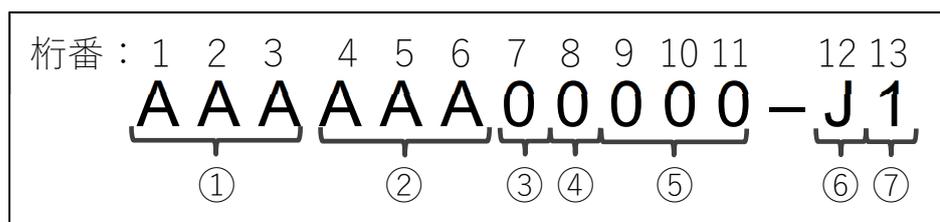
(10) キャンパスをまたぐ授業の履修について

原則として、国際基幹教育機構開設科目は、各学部・学域の主な学びのキャンパスで開講される科目を履修してください。ただし、再履修時や、資格科目、副専攻科目、その他各学部・学域において必要と認められる科目については、主な学びのキャンパス以外のキャンパスでの履修が許可されることがあります。

なお、個人的都合による理由で主な学びのキャンパス以外の科目を履修することはできません。主な学びのキャンパスについては、『履修登録の手引』(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内)を参照してください。

6. 科目ナンバリング

科目ナンバリングは、教育課程の体系性を示すために、科目に記号と番号を組みあわせて付与することによって、科目の学問分野、カリキュラム内での位置づけを示す仕組みです。本学では、科目の属性に応じて、アルファベットと数字を組み合わせた13桁で構成された番号を、下記のとおり①開設部局・②学問分野・③科目レベル・④科目区分・⑤連番・⑥使用言語・⑦授業形態として各科目に付番しています。各授業科目の科目ナンバリングは、シラバスをご確認ください。詳細は大学Webサイト(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内)をご覧ください。



7. 履修登録

(1) 履修登録

① 学生ポータル (UNIPA) による履修登録

科目を履修するにあたっては、各学期はじめの定める期日まで(4月上旬・9月中旬)に学生ポータル (UNIPA) より履修登録をする必要があります。履修を考えている科目は全て履修登録期間に登録してください。

② 登録上の諸注意

- 本要覧の「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」および各学部・学域の『要覧』に記載されている標準履修課程表などをよく確認して登録してください。不合格となった科目の再履修は原則として次年度以降となりますが、一部の前期開講科目については、同一年度の後期に再履修できる場合があります。
- 配当年次に満たない年次の学生は、その科目を履修することはできませんが、配当年次を越える年次の学生は履修が可能です。ただし、所属する学科・学類によっては、履修年次を指定している場合があるので、注意してください。
- 同一曜日に複数キャンパスで授業を履修する場合、キャンパス間移動の時間が確保できないと判断される場合は履修エラーとなりますので注意してください。
- 同一曜日時限に、2科目以上を重複して履修登録することはできません。
- 既に単位を修得した科目を再び履修することはできません。
- 履修登録できる単位数には上限が設定される場合があります。詳しくは「9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」の項目を確認してください。
- 卒業・進級予定者が集中講義・単位互換科目等を履修する場合、開講日により進級・卒業判定の際の単位に含むことができない場合がありますので、履修登録時に各学部・学域教務担当窓口にご相談してください。

③ 履修登録の確認

履修登録の締め切り後の履修登録確認日・抽選結果発表日に、学生ポータル (UNIPA) の「抽選希望登録対象一覧」画面および「学生時間割表」画面上にて抽選科目の抽選結果および履修登録内容の確認が可能になります。履修登録確認日・抽選結果発表日に登録内容を点検し、希望どおり正しく登録されているか確認してください。特に、エラーが出ている科目については、履修登録修正期間内に修正してください。

なお、抽選科目については、履修登録修正期間中に科目の追加・削除はできません。詳しくは (2) 抽選科目を参照してください。

※ **履修登録のスケジュール等について、詳しくは『履修登録の手引』(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内) を参照してください。**

(2) 抽選科目

基幹教育科目のうち、**総合教養科目、ゼミナール科目[初年次ゼミナール]、外国語科目[初修外国語]**については、抽選希望登録が必要な科目です。登録方法は、『UNIPA 操作マニュアル (学生用)』を参照してください。抽選結果の発表日に、抽選結果および登録内容を確認してください。

なお、当選した科目は必ず履修してください (例外として、GPA 対象科目の履修中止制度により、履修中止が認められる場合があります)。

抽選結果発表後に、追加登録可能な科目については、学生ポータル (UNIPA) および学生 Navi に掲載します。

各科目区分における詳しい情報は、「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を参照してください。

(3) クラス指定

基幹教育科目のうち、**情報科目[情報リテラシー]、外国語科目 (英語)、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目**については、クラス指定があります。学生ポータル (UNIPA)

および学生 Navi に各学部・学域別にクラス指定の表を掲載しますので、履修登録期間中に、指定のクラスを履修登録してください。なお、登録方法は、『UNIPA 操作マニュアル（学生用）』を参照してください。

(4) シラバス

シラバスには、カリキュラムにおける科目の位置付けや授業の方法、授業概要、到達目標、授業計画、成績評価の方法等が記載されています。履修登録にあたっては、授業時間割・シラバス等を確認し、自身の学習計画を立ててください。

8. 成績評価・試験

(1) 成績評価方法・単位の修得

履修科目の成績は、シラバスで授業科目ごとに示されている方法で各授業担当教員によって評価され、合格した科目に単位が与えられます。成績の評語については「9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」で記載します。成績は学生ポータル（UNIPA）で確認することができます（定められた期間を除く）。

(2) 定期試験

単位の認定は基本的に試験の成績によって行われますが、試験を行わず、レポートや平常の成績等によって単位認定が行われることもあります。

試験を実施する場合は、原則として、授業期間終了後（試験期間）に実施します。試験の時間割は学生ポータル（UNIPA）を確認してください。

(3) 追試験・再試験

〔追試験〕

試験を欠席した理由が以下の項目に該当する場合には、追試験を行うことがあります。

- ① 学生が病気または負傷した場合
- ② 学生の親族が死亡した場合（2 親等以内の親族または同居の親族に限る。）
- ③ 公共交通機関の遅延による場合
- ④ 学生が国家試験等を受験する場合
- ⑤ 学生が裁判員裁判へ参加する場合
- ⑥ その他やむを得ないものと認められた場合

追試験の受験を希望する学生は、所定の期間内に証憑書類を添えて国際基幹教育機構（森之宮学務室教務担当）まで、願い出る必要があります。追試験の実施有無や受験方法等については、森之宮学務室教務担当まで問い合わせてください。

〔再試験〕

国際基幹教育機構開設科目の定期試験で不合格になった場合、**再試験の実施はありません。**

9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制

(1) 成績評語と GPA 制度

履修科目の成績は、定められた基準にもとづき評価され、発表は評語により行います。各評語の評価基準などは大学 Web サイト(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内)を確認してください。

履修登録した各科目の成績に GP (Grade Point) を割り当てて、その平均を取ったものを GPA (Grade Point Average) といいます。学修の達成度を客観的に評価するための指標として学期ごとに算出され、卒業するために必要な単位をただ修得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としています。GPA は学期ごとに算出されます。GPA の算出方法は大学 Web サイト(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内)から確認してください。

GPA の対象となる科目は、原則として履修登録した全ての科目です。ただし、卒業の所要単位に算入されない科目(資格科目等の自由科目)、評語「N(認定)」「単位認定された科目」、評語「P(合格)」の「成績評価基準にもとづく評価をしない科目で合格となった科目」は GPA から除かれます。また、成績証明書には、発行した時点での通算 GPA が記載されません。

なお、履修登録の締切以降は、原則として変更はできません。ただし、以下に示す条件により履修を続けることが困難な場合、特別に履修中止を認める場合があります。

- ① 実際の授業の内容が公開されている「シラバス」と本質的に異なっている場合
- ② 授業についていけないだけの知識不足が発覚した場合

手続きの時期や方法など詳細については『履修登録の手引』(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>シラバス・履修案内)を確認してください。

(2) CAP 制

学期内で履修する科目について事前・事後学修の時間を確保するために、各年度・各学期に履修登録できる総単位数には、上限が設けられています。このことを CAP 制(キャップ制)といいます。

原則として1年次の履修上限は年間50単位未満、前期25単位以下、後期25単位以下の範囲で定められています。通年科目の単位数を計算するときは、通年科目の単位数を開講学期数で割ってそれぞれの学期に振り分けされます。詳細は所属学部・学域の『要覧』で確認してください。

原則として、卒業の所要単位に算入されない科目(資格科目等の自由科目)は CAP 制の対象外となります。卒業の所要単位に算入される科目の中で、例外的に CAP 制対象外となる科目もあります。国際基幹教育機構開設科目の CAP 制対象外科目について、詳しくは本要覧の「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認してください。

10. 外国語科目（英語）の単位認定および（初修外国語）入門初級履修免除制度について

(1) 外部試験等による英語の単位認定

高い英語能力を持った学生を対象に、外国語科目（英語）の単位認定を行う制度があります。単位認定を希望する学生は、期日までに森之宮学務室教務担当まで申請してください。申請した学生に対し、最終的に認定するかどうか判断を行います。

なお、認定された科目は履修することができないので注意してください。

<申請要項>

下記の条件のいずれかを満たしている場合、単位認定を申請できます。申請の際には、下記外部試験のスコアもしくは合格を証明する書類を提出してください。ただし、外部試験のスコア（合格）証明書は申請時から過去1年以内に受験したものに限りです。

- 条 件 : ① TOEIC Listening & Reading スコア 865 以上 (公開テスト・IPテスト)
② TOEFL iBT スコア 83 以上
③ IELTS オーバーオール・バンドスコア 6.0 以上
④ ケンブリッジ英検 FCE 170 以上
⑤ 英検 1級

対象科目 : [必修科目] University English 1A、University English 2A、University English 3A

[選択科目] TOEIC L&R、TOEFL A、TOEFL B

最大6科目6単位申請可能

※なお、国際教育機関の認定により入学した学生または海外で大学教育を終えている学生にかぎり、University English 1B、University English 2Bの単位認定を申請できます。申請を希望する場合は、国際教育機関等の修了証明書を提出してください。この2科目の単位認定の審査では面接を実施します。

また、国際教育機関の認定により入学した学生または海外で大学教育を終えている学生で、上記条件①～⑤のいずれかを満たしている場合は、University English 1B、University English 2Bを含めて最大6科目6単位まで申請できます。

申請期間 : 3月下旬～4月上旬および7月上旬～7月中旬 (年2回)
詳細な日程は学生ポータル (UNIPA) にて掲載されますので、定期的に確認し、申請してください。

申請必要書類 : (1) スコア (合格) 証明書の PDF データ
(2) University English 1B、2B を申請する学生は国際教育機関等の修了証明書

(2) 入門初級履修免除制度

初修外国語（朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語）を学んだことのある学生で、指定する必要なレベル以上と認められる場合は、1年次科目（入門・初級・基礎・応用）の履修を免除し、2年次科目（中級レベル）を履修できます。詳細は「新入生ナビ」（ホーム>教育・学生生活>新入生のみなさまへ）を参照してください。

申請した学生に対し、各言語の教員が面接等を行い、最終的に1年次科目の履修を免除するかどうかを判断します。

ただし、初修外国語科目はゼロから始める外国語科目という意味であり、自分の第一言語（母語）を初修外国語科目として履修することはできません。また、1年次科目の履修を免除するだけで、単位が認定されるわけではありません。

11. 定期試験受験心得

- (1) 試験開始までに入室し、試験監督者の指示に従ってください。
- (2) あらかじめ履修登録した科目のみ、受験することができます。
- (3) 受験に際しては、必ず学生証(以下、デジタル学生証不可)を持参し、着席した机の上に置いてください。学生証を忘れた場合は、事前に所属学部・学域教務担当窓口等で仮受験票の交付を受けてください。これを怠った場合は、受験を許可しないことがあります。
- (4) 試験を開始して30分経過後の遅刻者は受験を許可されません。
- (5) 試験を開始して30分を経過しなければ退出は許されません。
- (6) 机上には、持ち込みを許可されたもの(教科書、ノートなど)がある場合を除いて、学生証、筆記具以外を置いてはいけません。
- (7) 携帯電話(スマートウォッチ含む)などの電子機器は、特に許可された場合を除き、電源を切り、かばんの中に入れてください。また、音を発する物(たとえば時計のアラーム)などで、他人に迷惑をかけてはいけません。
- (8) 受験中、学生相互間の物品(筆記具を含む)の貸借は一切認められません。また、私語をしてはいけません。
- (9) 配付された答案用紙には、所定の箇所に、学籍番号、氏名などを必ず記入してください。
- (10) 答案用紙は試験監督者から配付されたものを使用し、書き損じた答案用紙も全て提出してください。配付されたものは、許可されたもの以外は持ち帰ってはいけません。
- (11) 試験監督者が不正行為を認めた場合には、受験の停止、退室などを命ずることがあり、受験者はこれに従わなければいけません。
- (12) 対面試験と同様に遠隔試験についても一切の不正行為を禁じます。
- (13) レポート試験*について、次の行為に対して不正行為とみなします。
 - ① 他者のレポートの一部または全部を書き写す行為
 - ② 他者にレポート作成を依頼する行為
 - ③ 他者に依頼されて本人の代わりにレポートを作成する行為
 - ④ レポートのデータや資料等を捏造または改ざんする行為
 - ⑤ その他、上記の不正行為に準ずる行為
- (14) 試験(遠隔試験、レポート試験も含む)で不正行為を行った学生に対しては、原則としてその試験実施日が属する学期に履修中の科目の成績を全て無効とします。
- (15) 不正行為を行った学生は、学則に基づいた懲戒処分(訓告、停学、退学)の対象になる事もあります。
- (16) いかなる試験においても、自己または他人のために不正行為をしてはいけません。

*16. 生成AIの利活用に関する学生向けガイドラインも参照してください。

12. 成績評価についての異議申立

学生は、その学期の成績評価について、次のような場合に異議を申し立てることができます。

- (1) 成績の誤記入等、担当教員の誤りであると思われるもの
- (2) シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして、評価結果等について疑義があるもの

国際基幹教育機構開設科目について、異議申立を行う場合、学生ポータル (UNIPA) に掲載する申立期間内に森之宮学務室教務担当へ申し出てください。なお、これは成績評価に納得がいけない者が、問い合わせ、また異議申立を行う制度ではないので、注意してください。

13. 休講・欠席について

(1) 気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講および定期試験の延期措置について取扱の詳細は、以下のリンクより大学 Web サイト「ホーム>教育・学生生活>授業の休講等（気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講及び定期試験の延期措置について）」を確認してください。

(2) 授業欠席時の取扱いについて

授業を欠席する場合は、大学 Web サイト(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係 授業欠席時の取扱いについて)を確認のうえ、所定の手続きを行ってください。欠席理由（病気、各種実習、介護等体験、クラブ活動、忌引等）の如何を問わず原則として「欠席届」を授業担当教員に提出してください。授業科目の成績評価等の配慮については、授業担当教員の判断によります。

なお、以下の場合の特例として通常と対応が異なります。

学校感染症に指定されている感染症（季節性インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症等）に罹患した場合、大学 Web サイト(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係 学校において予防すべき感染症に罹患した場合)を確認してください。

● 裁判員制度に伴う裁判に出席する場合

大学 Web サイト(ホーム>教育・学生生活>授業・履修>学事日程・授業関係 授業欠席時の取扱いについて)を確認してください。

14. 修学上の配慮・支援

疾病、障害および性的指向や性自認（SOGI）等の社会的障壁を有する学生で個別具体的な修学上の配慮・支援を必要とする場合は、アクセシビリティ支援委員もしくはアクセシビリティセンターに申し出てください。

● アクセシビリティ支援委員

学内 Navi>学生生活>アクセシビリティセンター>アクセシビリティ支援委員名簿

● アクセシビリティセンター

所属 学部・学域等	担当 キャンパス	連絡先 メールアドレスは共通	場所
現代システム科学域、 工学部（建築学科、都市学科、 化学バイオ工学科除く）、 農学部、獣医学部	中百舌鳥	072-254-9867 gr-gks-ac@omu.ac.jp	A 3 棟 1 階
法学部、経済学部、商学部、 理学部、工学部（建築学科、 都市学科、化学バイオ工学科）、 医学部医学科、看護学部、 生活科学部（食栄養学科除く）	杉本	06-6605-3650 gr-gks-ac@omu.ac.jp	学生サポート センター 1 階
文学部、 医学部リハビリテーション学科、 生活科学部（食栄養学科）	森之宮	06-6167-1018 ※学生なんでも相談窓口 と併用 gr-gks-ac@omu.ac.jp	2 階 事務室

15. 教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入

学ぶ力（学習自己管理能力）を高めること、すなわち、

- 目標を意識しながら、学ぶこと
- 自分自身の学びを見つめる（振り返る）目を養うこと
- 学びについて得た気づきを、次の学修に生かすこと

を主な目的として、半期ごとに、教育学習支援基盤「ていら・みす」において、ポートフォリオ（学修記録）への記入を行います。「ていら・みす」へは、学生ポータル（UNIPA）からアクセスしてください。

16. 生成 AI の利活用に関する学生向けガイドライン

本学では、学業や研究において生成 AI を有効かつ安全に活用できるよう、ガイドラインを作成しました。ガイドラインの内容をよく確認の上、適切な場面で責任を持って活用してください。

学生 Navi 授業・履修>大阪公立大学（学部・学域生）>08_生成 AI の活活用に関するガイドラインについて

III. 科目の紹介・科目一覧



III. 科目の紹介・科目一覧

次頁より、国際基幹教育機構が開設する科目の紹介・科目一覧〔2026年度開講予定科目〕を、科目区分ごとにまとめています。なお、各科目区分における学生ポータル (UNIPA) での抽選申請、クラス指定の有無、同一年度における同一名称科目の再履修の可否は下表のとおりです。

クラス指定「あり」の場合、学生ポータル (UNIPA) および学生 Navi にて掲載するクラス指定の表を参照のうえ、指定のクラスを履修してください（初修外国語科目を除く）。

同一年度における同一名称科目の再履修が「不可」の科目の再履修は、**原則、翌年度以降**になります。その際、クラス指定がある科目は、所属学部・学科、学域・学類に配当されたクラスを履修してください。

各科目の再履修クラスの詳細については、変更の可能性があるため、学生ポータル (UNIPA) および学生 Navi にて最新情報を確認してください。

〔表：抽選・クラス指定・同一年度の再履修について〕

科目区分	学生ポータル (UNIPA) 抽選の有無	クラス指定の有無	同一年度内の再履修
総合教養科目	あり	なし	可 (抽選で当選した場合)
ゼミナール科目	あり	なし	不可
情報科目	なし	あり	一部の科目は可 (情報リテラシーに限り後期に再履修クラスを履修)
英語科目 (University English 1A,1B,2A,2B,3A,3B)	なし	あり	可 (後期に再履修クラスを履修)
英語科目 (上記以外)	なし	なし	不可
初修外国語科目 (入門・ 初級・基礎・応用)	あり (言語を選択)	あり (抽選後、大学にてクラス割り当て)	一部のコースは可 (後期に再履修クラスを履修)
初修外国語 (中級)	なし	あり	不可
初修外国語科目 (特修)	なし	なし	不可
特例科目	なし	なし	不可
健康・スポーツ科学科目	なし	あり	不可
基礎教育科目	なし	あり	不可
資格科目	なし	あり	可

1. 総合教養科目

〔カリキュラム概要〕

総合教養科目は、大学における学修・研究全般の基礎となる論理的思考力や表現力、広い視野に立った総合的な判断力の育成、現代社会に生きる人間に求められる実践的な倫理的態度、異なる地域・時代の他者や文化に対する尊重と共感の姿勢に裏打ちされた教養の修得を目的とするもので、全学的協力体制のもとに展開されます。

総合教養科目には、学び・考え・実践に結びつける価値のあるさまざまな主題に分かれた科目が用意されています。個々の問題関心に沿ってそれらを履修することによって、履修者はそれぞれの専門領域を深めていく際に求められる基礎的知識や技法を修得できるだけではなく、生涯を通じて柔軟に学び続けることの意義を理解し、絶え間なく変化する時代において世界市民として活躍するために欠かせない確かな教養と寛容の精神とを培うことができます。

〔科目の構成〕

総合教養科目には、思考力、表現力、判断力の基盤の上に、幅広い知識を総合的に活用できる能力を身に付けるための授業科目が用意されています。各科目はそれぞれの役割や特性に従って、「Ⅰ 基礎科目」・「Ⅱ 主題科目」・「Ⅲ キャリアデザイン科目」・「Ⅳ 数理・データサイエンス科目」の4つに分類されています。

- ア) 「Ⅰ 基礎科目」群では、「A 人文科学」・「B 社会科学」・「C 自然科学」・「D 大阪学」の区分を設け、諸学の基礎となる学問分野の代表的な科目を配置します。
- イ) 「Ⅱ 主題科目」群では、「A SDGs」・「B 人間・都市・社会」・「C 歴史と文化」・「D 自然と情報」という4つの区分の下に、個別的テーマを掘り下げて論じる科目を開講します。
- 基礎科目と主題科目では、それぞれの専門分野の教員が担当する多様な授業を通じて、幅広い学問分野を俯瞰しながら教養を身につけ深めていくことができます。
- ウ) 「Ⅲ キャリアデザイン科目」群には、キャリアデザイン能力の涵養、人権、共生、他者理解、インターンシップ等について学ぶ科目が配置され、初年次のみならず、後年次での履修にも適した内容となっています。この科目群では、キャリアデザインに求められる思考法、学び方、社会とのかかわり、ビジネス計画に関わる科目を配置し、学生が社会的および職業的自立を図るために必要な能力を培うことを目的として開講されます。
- エ) 「Ⅳ 数理・データサイエンス科目」群では、これからの時代の基盤となるデータサイエンスの基礎を身に付けるため、AIを使用する上で基本となる数学的モデリングを具体的な例で学ぶ科目、データサイエンスに求められる統計学の基本的な知識や分析方法を、応用事例を通じて学ぶ科目、データサイエンスを課題解決に向けたデータに基づく知識発展のサイクルと捉え、そのサイクルを構成するデータの記述、可視化、取得、管理、加工、解析などの要素技術と、サイクル中でのそれらの役割について学ぶ科目が開講されます。

〔履修上の注意〕

- 履修にあたっては、学生ポータル (UNIPA) による抽選希望登録が必要です。詳細は、『履修登録の手引』『学生ポータル (UNIPA) 操作マニュアル』を参照してください。
- 同一名称の科目が前期・後期の両学期に開講されている場合、同一年度に再履修することが可能です。詳細は、『履修登録の手引』を参照してください。

〔2026年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期		備考	
							森之宮			
							前期	後期		
基礎科目	人文科学	1GAA001	哲学入門	2	2	(講)	全	○	○	
		1GAA002	倫理学入門	2	2	(講)	全	○	○	
		1GAA003	日本史の見方	2	2	(講)	全	○	○	
		1GAA004	東洋史の見方	2	2	(講)	全	○	○	
		1GAA005	西洋史の見方	2	2	(講)	全	○		
		1GAA006	考古学入門	2	2	(講)	全		○	
		1GAA007	言語学入門	2	2	(講)	全	○		
		1GAA008	日本語学入門	2	2	(講)	全		○	
		1GAA009	社会言語学入門	2	2	(講)	全		○	
	社会科学	1GAB001	日本国憲法	2	2	(講)	全	○	○	
		1GAB002	心理学入門	2	2	(講)	全	○		
		1GAB003	現代社会学入門	2	2	(講)	全	○	○	
		1GAB004	現代経済学入門	2	2	(講)	全		○	
		1GAB005	現代地理学入門	2	2	(講)	全	○		
		1GAB006	文化人類学入門	2	2	(講)	全	○	○	
		1GAB007	法学入門	2	2	(講)	全		○	
		1GAB008	政治学入門	2	2	(講)	全		○	
		1GAB009	ジェンダー論入門	2	2	(講)	全	○		
	自然科学	1GAC001	科学技術と社会	2	2	(講)	全	○		
		1GAC002	数学への招待	2	2	(講)	全		○	
		1GAC003	物理学への招待	2	2	(講)	全	○	○	
		1GAC004	化学への招待	2	2	(講)	全	○	○	
		1GAC005	生物学への招待	2	2	(講)	全	○		
		1GAC006	生物化学への招待	2	2	(講)	全	○		
		1GAC007	地球学への招待	2	2	(講)	全	○	○	
		1GAC008	英語で学ぶ基礎科学への招待	2	2	(講)	全	○		
	大阪学	1GAD001	歴史のなかの大阪	2	2	(講)	全		○	
		1GAD002	関西文学論	2	2	(講)	全	○		
1GAD003		地域文化学	2	2	(講)	全		○		
1GAD005		大阪の都市づくり	2	2	(講)	全	○			
1GAD006		大阪落語への招待	2	2	(講)	全	○			
主題科目		SDGs	1GAE001	技術と環境	2	2	(講)	全		○
	1GAE002		人体を考える	2	2	(講)	全	○		
	1GAE004		国際開発の課題	2	2	(講)	全		○	
	1GAE005		人間と居住環境	2	2	(講)	全	○		
	1GAE006		環境と経済	2	2	(講)	全		○	
	1GAE007		生命と進化	2	2	(講)	全		○	
	1GAE008		現代の医療	2	2	(講)	全	○		
	1GAE009		健康へのアプローチ	2	2	(講)	全	○		
	1GAE010		生命と環境	2	2	(講)	全		○	
	1GAE011		現代社会と健康	2	2	(講)	全	○	○	
	1GAE012		自然環境学概論	2	2	(講)	全		○	
	1GAE013		環境・生命・倫理	2	2	(講)	全	○		
	1GAE014		スポーツトレーニング理論	2	2	(講)	全		○	
	人間・都市・社会		1GAF001	哲学的人間学	2	2	(講)	全	○	○
1GAF002		哲学と社会	2	2	(講)	全	○			
1GAF003		人間と宗教	2	2	(講)	全	○	○		
1GAF004		共生社会と宗教	2	2	(講)	全	○			
1GAF005		教育と文化	2	2	(講)	全	○	○		
1GAF006		心理学・認知科学と人間	2	2	(講)	全		○		

●備考欄に配当年次が記載されていない科目は、1年次配当です。
 ●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。
 ※UNIPA抽選申請対象外科目

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期		備考
							森之宮		
							前期	後期	
人間・都市・社会 主題科目	1GAF007	文化と社会の心理	2	2	(講)	全		○	
	1GAF008	認知のしくみ	2	2	(講)	全		○	
	1GAF009	行動と学習の心理	2	2	(講)	全		○	
	1GAF010	教育と発達心理学	2	2	(講)	全	○		
	1GAF011	子どもの生活と健康教育	2	2	(講)	全		○	
	1GAF012	社会科学のフロンティア	2	2	(講)	全		○	
	1GAF013	思想と社会	2	2	(講)	全	○	○	
	1GAF014	経済学の歴史と思想	2	2	(講)	全	○		
	1GAF015	戦争と人間	2	2	(講)	全	○	○	
	1GAF016	世界のなかの日本経済	2	2	(講)	全	○		
	1GAF017	現代日本の政治と経済	2	2	(講)	全		○	
	1GAF018	現代の経営	2	2	(講)	全	○		
	1GAF019	国際社会と法	2	2	(講)	全		○	
	1GAF020	国際社会と政治	2	2	(講)	全		○	
	1GAF021	暮らしと政治	2	2	(講)	全	○		
	1GAF022	都市的世界の社会学	2	2	(講)	全	○		
	1GAF023	現代文化の社会学	2	2	(講)	全	○	○	
	1GAF024	メディアの社会学	2	2	(講)	全	○		
	1GAF026	家族と社会	2	2	(講)	全		○	
	1GAF028	スポーツと社会	2	2	(講)	全	○		
	1GAF029	測定・実験で学ぶ人間と社会	2	2	(講)	全	○		
	1GAF030	観光研究入門	2	2	(講)	全	○		
	1GAF031	都市の地理学	2	2	(講)	全	○		
	1GAF032	都市の社会史	2	2	(講)	全		○	
	1GAF033	都市生活と人間福祉	2	2	(講)	全	○		
	1GAF034	バリアフリー論	2	2	(講)	全	○		
	1GAF035	現代都市論	2	2	(講)	全		○	
	1GAF036	都市の経済とビジネス-AI入門	2	2	(講)	全		○	
	1GAF038	国際地域経済と都市	2	2	(講)	全		○	
	1GAF039	都市研究の最前線	2	2	(講)	全		○	
	1GAF040	コミュニティ防災	2	2	(講)	全	○		
	1GAF041	現代の部落問題	2	2	(講)	全	○		
	1GAF042	メディアと人権	2	2	(講)	全	○		
	1GAF043	部落解放のフロンティア	2	2	(講)	全		○	
	1GAF044	部落差別の成立と展開	2	2	(講)	全		○	
1GAF045	グローバル化と人権	2	2	(講)	全		○		
1GAF046	障がい者と人権A	2	2	(講)	全	○			
1GAF047	障がい者と人権B	2	2	(講)	全		○		
1GAF048	企業と人権	2	2	(講)	全		○		
1GAF049	地球市民と人権	2	2	(講)	全	○			
1GAF050	労働と人権	2	2	(講)	全	○			
1GAF051	平和と人権	2	2	(講)	全		○		
1GAF052	ジェンダーと現代社会	2	2	(講)	全		○		
1GAF053	クィアスタディーズ	2	2	(講)	全	○			
1GAF054	エスニック・スタディ	2	2	(講)	全	○			
1GAF055	コリアン・スタディーズ	2	2	(講)	全		○		

●備考欄に配当年次が記載されていない科目は、1年次配当です。
●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。
※UNIPA抽選申請対象外科目

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期		備考
							森之宮		
							前期	後期	
主題科目 歴史と文化	1GAG001	歴史を学ぶとは	2	2	(講)	全	○	○	
	1GAG002	日本社会の歴史	2	2	(講)	全		○	
	1GAG003	東洋社会の歴史	2	2	(講)	全	○	○	
	1GAG004	西洋社会の歴史	2	2	(講)	全		○	
	1GAG005	現代の歴史	2	2	(講)	全		○	
	1GAG006	ことばの歴史	2	2	(講)	全	○		
	1GAG007	英語学	2	2	(講)	全		○	
	1GAG009	ヨーロッパの多言語社会	2	2	(講)	全		○	
	1GAG010	日本の古典文学	2	2	(講)	全	○	○	
	1GAG011	物語文学を読む	2	2	(講)	全		○	
	1GAG012	世界の文学	2	2	(講)	全	○		
	1GAG043	中国文学への招待	2	2	(講)	全		○	
	1GAG016	日本の近代文学	2	2	(講)	全	○		
	1GAG017	近代社会と読書	2	2	(講)	全		○	
	1GAG018	芸術の世界	2	2	(講)	全	○		
	1GAG019	東洋美術史	2	2	(講)	全	○		
	1GAG020	美術史	2	2	(講)	全	○	○	
	1GAG021	音楽の諸相	2	2	(講)	全	○		
	1GAG023	造形と生活	2	2	(講)	全		○	
	1GAG024	アーツマネジメント	2	2	(講)	全	○		
	1GAG025	音楽と対話	2	2	(講)	全		○	
	1GAG027	アイデンティティと文化	2	2	(講)	全	○		
	1GAG028	国際文化の視点	2	2	(講)	全		○	
	1GAG029	環境と文化	2	2	(講)	全	○		
	1GAG030	観光と文化	2	2	(講)	全		○	
	1GAG031	中国の思想	2	2	(講)	全	○		
	1GAG034	新西洋事情	2	2	(講)	全	○	○	
	1GAG035	西洋社会文化史	2	2	(講)	全	○		
	1GAG036	西洋宗教文化史	2	2	(講)	全	○		
	1GAG037	西洋教育文化史	2	2	(講)	全		○	
	1GAG038	フィランソロピー学入門	2	2	(講)	全		○	
	1GAG039	比較文化社会論	2	2	(講)	全		○	
1GAG040	日本事情A	2	2	(講)	全	○			
1GAG041	日本事情B	2	2	(講)	全		○		
1GAG042	英語で学ぶ日本事情	2	2	(講)	全		○		

●備考欄に配当年次が記載されていない科目は、1年次配当です。
●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。
※UNIPA抽選申請対象外科目

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考		
							森之宮		その他				
							前期	後期	前期	後期			
主題科目	自然と情報	1GAH001	社会に生きる科学	2	2	(講)	全	○					
		1GAH002	現代科学と人間	2	2	(講)	全	○	○				
		1GAH003	心と脳	2	2	(講)	全		○				
		1GAH004	行動と視機能	2	2	(講)	全		○				
		1GAH005	データリテラシー	2	2	(講)	全		○				
		1GAH006	植物の科学	2	2	(講)	全	○					
		1GAH007	地図と地理情報	2	2	(講)	全		○				
		1GAH008	情報と社会	2	2	(講)	全		○				
		1GAH009	社会におけるネットワーク	2	2	(講)	全		○				
		1GAH011	植物と人間	2	2	(講)	全	○					CAP対象外
		1GAH012	コンピューターグラフィックス概論	2	2	(講)	全	○					
		1GAH013	工学研究の最先端	2	2	(講)	全				中:○		CAP対象外/※
		1GAH014	創薬科学のすすめ	2	2	(講)	全	○					
		1GAH015	植物園で学ぶ植物の多様性	2	2	(講)	全		○				CAP対象外
		1GAH016	自然史	2	2	(講)	全	○					
		1GAH017	科学史入門	2	2	(講)	全		○				
		キャリアデザイン科目		1GAJ001	現代社会におけるキャリアデザイン	2	2	(講)	全		○		中・杉:○
1GAJ003	国際活動とキャリア			2	2	(講)	全	○	○				CAP対象外/通年集中講義/※
1GAJ004	大学でどう学ぶか			2	2	(講)	全	○					
1GAJ005	現代社会と大学			2	2	(講)	全	○					
1GAJ006	市民・学生のための大学評価論			2	2	(講)	全		○				
1GAJ007	世界の大学と学生			2	2	(講)	全		○				
1GAJ008	グローバル経営論			2	2	(講)	全		○			杉:○	(ハイフレックス)
1GAJ009	社会と会計			2	2	(講)	全		○				
1GAJ011	学びのデータから見る大学			2	2	(講)	全		○				
1GAJ013	研究者の世界へ			2	2	(講)	全		○				
1GAJ016	金融リテラシー	2	2	(講)	全		○						
数理・データサイエンス科目		1GAK001	数理・データサイエンス基礎A	2	2	(講)	全		○				
		1GAK002	数理・データサイエンス基礎B	2	2	(講)	全	○	○				
		1GAK003	数理・データサイエンス基礎C	2	2	(講)	全		○				
		1GAK004	数理・データサイエンス	2	2	(講)	全		○				

- 備考欄に配当年次が記載されていない科目は、1年次配当です。
- (講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。
- 杉:杉本キャンパス 中:中百舌鳥キャンパス
- ※UNIPA抽選申請対象外科目

2. ゼミナール科目

ゼミナール科目には、「初年次ゼミナール」、「プロジェクト」及び「高年次ゼミナール」があります。このうち「初年次ゼミナール」は全学部・学域で必修ですので、必ず履修してください。「プロジェクト」と「高年次ゼミナール」は、総合教養科目と合わせての選択科目です（必要な単位数は各学部・学域等の指示に従ってください）。

2-1 初年次ゼミナール

〔カリキュラム概要〕

大学は教育機関であると同時に研究機関でもあります。そのような場所での学びには、研究的な要素が重要になりますし、それが大学で学ぶことの醍醐味でもあります。このことを具体化したゼミナール科目として、1年次全学生必修の「初年次ゼミナール」を開講します。

総合大学である大阪公立大学の教員による多様なテーマのゼミナールが約200グループあり、18名程度を基本とする少人数クラスで、様々な学部・学域に所属する学生が交流・協同して、能動的な学修を行います。

グループディスカッションを通じた課題発表、プレゼンテーションやレポートによる自己表現、異なる視点との出会いによる自己の振り返り、複数の学部・学域の学生と教員とによる多様な視点の交換を行い、時には唯一の正解のない問題とも格闘することで、「大学でその学び」のためのスキルと主体的な学修姿勢を身につけてください。

〔科目の構成〕

- 初年次ゼミナールは、全ての学部・学域の学生にとって必修科目です。初年次ゼミナールの単位を修得しなければ卒業ができません。万一、1年次前期に単位を修得できなかった場合は2年次以降の前期に再履修クラスを履修する必要があります（ただし、開講クラス数に限りがあるため、選択肢が大幅に限定されます）。
- 多くのゼミナールが開講されますが、そのうち1つを履修します（2つ以上履修することはできません）。
- 各ゼミナールで取り上げるテーマはP25～P28の表のとおりです。履修を希望するクラスについて、より詳しい授業概要が知りたい場合は、学生ポータル（UNIPA）でシラバスを確認してください。
- 履修登録にあたっては、学生ポータル（UNIPA）による抽選希望登録が必要です。詳細は本冊子のP7および『履修登録の手引』を確認してください。登録の期日もありますので、注意してください。
- 再履修クラスは森之宮キャンパスで開講されます。
- 初年次ゼミナール以外の必修科目や専門科目は、学部・学域ごとの時間割配置によって異なるため、初年次ゼミナールを履修できる曜日・時限は限定されます。所属学部・学域の時間割等で確認してください。
- 初年次ゼミナール、総合教養科目、初修外国語など抽選によって決定される科目は、当選すると取消や変更はできませんので、十分に検討して、確認したうえで抽選申請を行ってください。
- 2026年度より、初年次ゼミナールは1単位科目（授業回数は8回）となりました。また、2つのグループを合わせて1クラスとして、合同授業を行う週もあります。詳しくは各ゼミナールのシラバスを確認してください。

〔履修上の注意〕

- クラスによっては、フィールドワークに行くための交通費や制作物を作るための材料費などの費用負担がある場合があります。シラバスを確認してください。
- クラスによっては、フィールドワークや実験、実習などのため、普段の教室以外の場所や普段の授業時間以外の日時に授業がある場合もあります。シラバスおよび教員からの指示をよく確認しておいてください。
- 教室の外での活動を行うクラスもあります。万一の事故に備えて、各自で保険（学生教育研究災害障害保険〔学研災〕および同付帯保険や学生総合共済など）に加入しておいてください。

〔履修上のアドバイス〕

- 2025年度以前の初年次ゼミナールを履修した先輩学生から、新入生のみなさんへの履修登録にあたってのアドバイスをまとめたものを、以下に掲載します。クラスの選択に際して、ぜひ参考にしてください。

【先輩からのアドバイス】

～クラスの選び方について～

- ・自分の学部分野関係なく、別の興味がある内容を選ぶことをお勧めします。この方法は割と少数派で、みんな学部に関係のあるものを選択するため、自分の別分野に行くことで、自分の知識がない分野の話が、知識をたくさん持っているほかの学生からたくさん聞けるのでお勧めです。
- ・初ゼミを受講する際は、自分にとって興味のあるものを選ぶとよいと思います。受講をすることで、与えられたテーマに対してどのように解決策を見つけるかを学ぶことができるので、ぜひ受講してほしいと思います。
- ・興味のある分野の初年次ゼミナールを選ぶといい。他学部の人と交流できるチャンスなので、積極的に活動して欲しい。少人数なので、仲が深まりやすい。プレゼンテーションや論文の書き方など、これから大学で必要になるスキルを学ぶことができる。
- ・自分の得意不得意をしっかりと考えて取るべきだと思う。私はレポートを書くよりもプレゼンで発表する方が好きだったので、発表メインの初ゼミを選んだ。自分に合わせた初ゼミを取ることで楽しみながらたくさん学ぶことができると思う。

～授業の受け方について～

- ・ラーニングセンターが発行している「学びの Tips」を積極的に活用することをおすすめします！
- ・初ゼミを決めた後、どのようなことを調べたいかをあらかじめ考えておいたほうがよい。そのテーマは現実的なほうがよい。
- ・自分の考え方やアイデアなどがどのように変わっていったのかメモを取っておくとあとから自分の意見を整理しやすい。またプレゼンにおいてもレポートにおいても、自分の意見の中心つまり一番大事な部分はどこか常に意識しながら進めると一貫性を保ちやすい。
- ・レポートや発表の流れを体験できるいい機会なので、文献を調べるのを面倒に思わず、また興味の有無に関わらずとりあえずやってみるといいと思います。
- ・レポートを作成する能力は初ゼミ以外の授業でも必要なので、しっかりと取り組んでほしい。また、情報リテラシーなど他の授業で学んだ Word や PowerPoint の使い方も活用すると良い。
- ・初年次ゼミナールで学んだことが他の講義でも生かせることが多くあったため、さまざまなことを積極的に学ぼうという姿勢で頑張してほしいと思います。
- ・初年次ゼミナールは初めとても緊張するが、何回もプレゼンを重ねるごとに慣れてくるし、先生がしっかりと添削してくれるのでレポートの書き方を改善することができた。友達と協力して作成するときもあるので気を楽にして受けてほしい。

～他のゼミ生とのコミュニケーション～

- ・グループなどで活動する機会が多いと思うが、積極的にコミュニケーションをとっていった方がいいと思う。レポートや発表用のスライドの作成など思っていたより課題が多く、授業で完結するものではなかったため、できれば一人あるいはグループで授業外に時間をとった方がいいと思う。
- ・ぜひ、学生同士のディスカッションに積極的に参加してください。私が受講した初年次ゼミナールではその機会が多く設けられており、中高の頃とは比べ物にならないくらい有意義な話し合いをすることができました。
- ・対話することで自分の考えをブラッシュアップすることができるので積極的に会話してほしい。

【初年次ゼミナールを受けて良かったこと】

～少人数・グループワークの醍醐味～

- ・初年次ゼミナールでは少人数で話し合いをすることができるので、自分の考えを深める場としていいなと思いました。
- ・少人数でのグループ活動は全員が責任感を持って出来た上に、授業時間外にも共に作業することで本当に絆が深まったと感じます。サークルや部活動などとはまた違った、大事な人達と出会えました。本当に楽しかったです。
- ・発表が多くて大変だったのですが、グループで行うものが多かったため他の人と話す機会が多くて楽しかったです。先生との距離も近くて良かったです。普段関わる機会の無い他学部の子とも仲良くなれました。
- ・グループワークの時間が多く取られていたのがありがたかったです。他の学生さんの考えは、聞いていてハッとさせられるような鋭いものが多く、とても有意義なディスカッションをすることができました。

～大学の学びを知る～

- ・普段自分の考えない観点から色々調べ、考えを深めることができたので、自分の成長も感じることができ、とても充実した初ゼミとなりました。
- ・なんとなく考えていたことをより明確にすることができました。自分の考えを深めるだけでなく、信頼できる資料を集めたり、論理的な展開のスライドか確認したり、他者に正確に伝えようという意識を持つようになりました。
- ・レポートを書くときにいろんな人の意見をまとめる力がついたと思う。また、上手に書いている子の表現を真似たり、先生の添削でより良いレポートの書き方を知ったりすることができた。
- ・レポートの構成の作り方や、参考文献の書き方など、レポート作成の基礎をしっかりと教えてもらったのが良かったです。また、教室外での活動があったのも良かったと思います。

2-2. 高年次ゼミナール

〔カリキュラム概要〕

高年次ゼミナールは、3年生以上を対象とし、講義に加え、異なる学部・学域に所属する履修生同士のディスカッションやプロジェクトの実施・発表を通して、他者の「問い」の視点も参考にしながら自身の専門性に立脚した「問う力」を高めるとともに、社会の諸課題の解決に必要となる基礎的な知識・技能・態度を身につけることを目的としています。

〔科目の構成〕

- 担当教員によってテーマは変わります。2025年度は「人生100年時代のキャリア」、「生成AIとの付き合い方」をテーマに中百舌鳥・杉本キャンパスで授業が開講されました。2026年度以降は、森之宮キャンパスで開講予定です。

〔履修上の注意〕

- 担当教員によってテーマ、授業日が異なりますので注意してください。
- 授業では事前課題に基づくディスカッションが基本となるため、積極的な態度で受講してください。

2-3. プロジェクト

〔カリキュラム概要〕

プロジェクト科目は、知識を受け身で学ぶだけでなく、**学生が能動的に課題に関わりながら学ぶこと**を重視しており、多様なプロジェクトや課題に取り組む中で、学んだ知識を活用しつつ仲間と協働し、自ら考え行動する姿勢を養います。これらの取り組みを通じて、**社会に出て活躍するための基礎的な力やキャリア意識を培うこと**を目的としています。

〔科目の構成〕

●2-3-1「キャリアと実践1」:

対象：1年次～4年次

この授業では、3つのステップで学びを深めます。①自らの未来社会を描く、②現在の社会状況との対比から問題を再定義する、③問題に対する「問い」を立てる——この流れで進めます。チームでの協働を通じて、コミュニケーション力、論理的思考、批判的思考を高めめます。また、キャリアデザインなど、実社会で求められるスキルを実践的に身につけることを目指します。

- ・ **社会人メンターによる長期伴走**（約3ヶ月）：企業の若手社員が社会人メンターとしてチームに伴走します。実務的な視点からフィードバックを得られる貴重な機会です。
- ・ **問いを立てる力の養成**：社会課題に対して適切な「問い」を自ら立て、問題の本質を見極める力を身につけます。これは予測不可能な現代社会で最も求められる力です。
- ・ **キャリア形成へ**：社会課題の解決に取り組むプロセスを通じて、自身の強みや課題を発見し、将来のキャリアにつなげることができます。

●2-3-2「キャリアと実践2」:

対象：2年次～4年次

大阪公立大学・大阪大学・関西大学の協働開講科目

この授業では、文系・理系の区別なく、それぞれの専門性を活かした共創デザインで「**問題を創造的に解決する**」とは何かを考え抜きます。「キャリアと実践1」の思考を発展的に伸ばすことを目的とします。チームでの協働を通じて、論理的思考、批判的思考、**問題の本質を考え抜くシステム思考**を中心に、プロジェクトマネジメントなど、実社会で求められる実践的なスキルの習得を目指します。最終目標は、社会で実装可能な形で解決案を提示することです。

- ・ **3大学連携による共創プロジェクト**：大阪公立大学・大阪大学・関西大学の学生との混成チームで学ぶことで、異なる専門性や視点を活かした創造的な問題解決力を養います。
- ・ **問題の本質を考え抜く思考**：複雑な社会課題に対して、表面的な現象だけでなく、その

- 背後にある構造や因果関係を深く探究します。問題の前提そのものを問い直すリベラルアーツ的な視点も養い、固定観念にとらわれない創造的なアプローチを可能にします。
- **キャリアビジョンの構築**：「キャリアと実践 2」では管理職クラスの社会人メンターの参加を予定しています。対話を通じて、より高い視座からこれからの社会を捉える視点を養います。これにより、自身の強みや課題を多角的に発見し、長期的なキャリアデザインを描く力を身につけることができます。

【QBIC プログラム】

「キャリアと実践 1」と「キャリアと実践 2」は、転換期の社会に求められる力を培うための産学連繋型教育プログラム（通称：QBIC）として展開しています。

詳しくは <https://www.omu.ac.jp/las/jinzai/qbic/index.html>（QR コード）をご覧ください。これまでの受講生の声も掲載しています。



●2-3-3 「プレゼンテーション技法」：

- ・この授業はアクティブ・ラーニング型学修でより深く学んでいくための基礎を培う科目です。プレゼンテーション、グループワーク・ディスカッション、論理的思考・発想法、発表資料の作成方法など、「他者への効果的な情報伝達」に関連する知識・技術を身につけることを目的としています。
- ・具体的には、他者とともにアイデアを出しながら議論をして理解を深める方法、目的（論理的な説明、問題解決）に沿った思考法、わかりやすい資料の作成方法、わかりやすい伝え方について学びます。

〔履修上の注意〕

● 「キャリアと実践 1」「キャリアと実践 2」：

- ・履修登録は履修登録期間中の UNIPA から登録ではなく、説明会后に担当教員への申し出により履修登録を行います。いずれの科目も CAP 対象外科目です。
- ・授業には主体的に参加してください。シラバスや QBIC プログラムの WEB ページ上でワークショップの日程を必ず確認し、全日程への参加を原則としてください。他の授業との日程重複で参加が困難な場合は、説明会までに担当教員に相談してください。受講の可能性を一緒に考えます。
- ・授業期間中は、チーム活動を通じたプレゼン資料作成やフィールドワーク・調査にも取り組む必要があります。チームメンバーとの積極的にコミュニケーションをとり、チーム活動に主体的に関わってください。
- ・企業の方や社会人メンターが関わるプロジェクトです。学生だけのプロジェクトではなく、社会人と協働する場であることを意識してください。ビジネスマナーを守り、社会人と同じ責任感を持った姿勢で臨むことが求められます。
- ・この経験は、社会に出る前の貴重な実践の場となります。困ったことがあれば、すぐに担当教員に相談してください。

● 「プレゼンテーション技法」：

- ・「他者への効果的な情報伝達」について、授業で扱う事例だけに留まらず、自分の身近な例を通して考えることで授業内容の理解を深めるようにしてください。

〔2026年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態	開講キャンパス および開講期	
							森之宮	
							前期	後期
初年次教育科目	初年次ゼミナール	疫学を学ぼう～健康問題を紐解く手法～a	福島 若葉	2	1	(演)	月5	
		疫学を学ぼう～健康問題を紐解く手法～b	福島 若葉	2	1	(演)	月5	
		日本近現代史の諸問題について-a	住友 陽文	2	1	(演)	火1	
		日本近現代史の諸問題について-b	住友 陽文	2	1	(演)	火1	
		判例を読むー法学や刑事事件が好きな人へ-a	松倉 治代	2	1	(演)	火1	
		判例を読むー法学や刑事事件が好きな人へ-b	松倉 治代	2	1	(演)	火1	
		海洋の環境と利用の科学-a	片山 徹	2	1	(演)	火1	
		海洋の環境と利用の科学-b	片山 徹	2	1	(演)	火1	
		子どもの事故防止	仁尾 かおり	2	1	(演)	火1	
		誰一人取り残さない社会について考えよう	森本 明子	2	1	(演)	火1	
		食で支える健康と他分野との関わり-a	栗原 晶子	2	1	(演)	火1	
		食で支える健康と他分野との関わり-b	栗原 晶子	2	1	(演)	火1	
		創薬と社会ー薬と社会のつながりを考える-a	道上 雅孝	2	1	(演)	火1	
		創薬と社会ー薬と社会のつながりを考える-b	道上 雅孝	2	1	(演)	火1	
		NPOの経営・寄付戦略を立てよう-a	松岡 悠和	2	1	(演)	金4	
		NPOの経営・寄付戦略を立てよう-b	松岡 悠和	2	1	(演)	金4	
		光と物質のふしぎ-a	松岡 雅也	2	1	(演)	火1	
		光と物質のふしぎ-b	松井 康哲	2	1	(演)	火1	
		光科学入門-a	松田 拓也	2	1	(演)	火2	
		光科学入門-b	松田 拓也	2	1	(演)	火2	
		沈黙の臓器・肝臓から健康を考える-a	打田 佐和子	2	1	(演)	火2	
		沈黙の臓器・肝臓から健康を考える-b	打田 佐和子	2	1	(演)	火2	
		日本の学校は当たり前か？-a	田村 徳子	2	1	(演)	火2	
		日本の学校は当たり前か？-b	田村 徳子	2	1	(演)	火2	
		哲学ってどんなこと？-a	佐金 武	2	1	(演)	火2	
		哲学ってどんなこと？-b	佐金 武	2	1	(演)	火2	
		人工知能を知り、考える-a	増山 直輝	2	1	(演)	火2	
		人工知能を知り、考える-b	増山 直輝	2	1	(演)	火2	
		ガソリン車とEV: 乗るならどっち？-a	中谷 隼人	2	1	(演)	火2	
		ガソリン車とEV: 乗るならどっち？-b	中谷 隼人	2	1	(演)	火2	
		健康をはかるしくみについて考えよう-a	吉本 佳世	2	1	(演)	火2	
		健康をはかるしくみについて考えよう-b	吉本 佳世	2	1	(演)	火2	
		ヒトの運動制御について-a	平岡 浩一	2	1	(演)	火2	
		ヒトの運動制御について-b	平岡 浩一	2	1	(演)	火2	
		リハビリから考える「共に働く社会とは」-a	内藤 泰男	2	1	(演)	火2	
		リハビリから考える「共に働く社会とは」-b	内藤 泰男	2	1	(演)	火2	
		親子保健について考える	緒方 靖恵	2	1	(演)	火2	
		ネット社会におけるヘルスリテラシー	森木 ゆう子	2	1	(演)	火2	
		フレイルを予防する地域づくり	根来 佐由美	2	1	(演)	火2	
		子育てと環境について考えてみよう	戸田 まどか	2	1	(演)	火2	
		人の行為や体験からデザインを考える-a	土井 俊央	2	1	(演)	火2	
		人の行為や体験からデザインを考える-b	土井 俊央	2	1	(演)	火2	
		人権と差別について考える	廣岡 浄進	2	1	(演)	火2	
		部落問題と日本社会	廣岡 浄進	2	1	(演)	火2	
		近代新漢語の成立と展開を探究する-a	大島 英之	2	1	(演)	火3	
		近代新漢語の成立と展開を探究する-b	大島 英之	2	1	(演)	火3	
		ロシアと中央ユーラシアの歴史と文化-a	濱本 真実	2	1	(演)	火3	
		ロシアと中央ユーラシアの歴史と文化-b	濱本 真実	2	1	(演)	火3	
ITサービス-a	田中 俊二	2	1	(演)	火3			
ITサービス-b	田中 俊二	2	1	(演)	火3			
地名が伝える情報-a	永田 好克	2	1	(演)	火3			
地名が伝える情報-b	永田 好克	2	1	(演)	火3			
ローカルとグローバルで考える環境課題-a	竹内 やよい	2	1	(演)	火3			
ローカルとグローバルで考える環境課題-b	竹内 やよい	2	1	(演)	火3			
脳を構成する細胞について考える	高野 桂	2	1	(演)	火3			
人と動物との関わりを考える	土赤 忍	2	1	(演)	火3			

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

●-a、-bは同じテーマで2グループ開講されます。

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態	開講キャンパス および開講期	
							森之宮	
							前期	後期
初年次教育科目	初年次ゼミナール	うつ病を知り、予防しよう-a	井上 貴雄	2	1	(演)	火3	
		うつ病を知り、予防しよう-b	井上 貴雄	2	1	(演)	火3	
		AIプロダクトデザイン-a	石丸 翔也	2	1	(演)	火3	
		AIプロダクトデザイン-b	石丸 翔也	2	1	(演)	火3	
		苦情対応について考える-a	岩井 千春	2	1	(演)	火3	
		苦情対応について考える-b	岩井 千春	2	1	(演)	火3	
		英語の謎をさぐる-a	山本 修	2	1	(演)	火3	
		英語の謎をさぐる-b	山本 修	2	1	(演)	火3	
		スポーツでつながる地域共創-a	松竹 貴大	2	1	(演)	火3	
		スポーツでつながる地域共創-b	松竹 貴大	2	1	(演)	火3	
		身の回りの市販薬はどのように効くのか?-a	坂本 健太郎	2	1	(演)	火4	
		身の回りの市販薬はどのように効くのか?-b	坂本 健太郎	2	1	(演)	火4	
		社会科学の古典を読む-a	山本 泰三	2	1	(演)	火4	
		社会科学の古典を読む-b	山本 泰三	2	1	(演)	火4	
		因数分解 再入門-a	吉田 雅通	2	1	(演)	火4	
		因数分解 再入門-b	吉田 雅通	2	1	(演)	火4	
		地震災害を考えよう-a	角掛 久雄	2	1	(演)	火4	
		地震災害を考えよう-b	角掛 久雄	2	1	(演)	火4	
		ADASから自動運転へ:現状と課題の調査-a	江 易翰	2	1	(演)	火4	
		ADASから自動運転へ:現状と課題の調査-b	江 易翰	2	1	(演)	火4	
		外国人との共生社会と異文化理解-a	藤岡 真由美	2	1	(演)	火4	
		外国人との共生社会と異文化理解-b	藤岡 真由美	2	1	(演)	火4	
		伝わる書き方・伝わる文章を考える-a	野田 三貴	2	1	(演)	火4	
		伝わる書き方・伝わる文章を考える-b	野田 三貴	2	1	(演)	火4	
		健康まちづくり・アクションゼミ-a	川端 悠	2	1	(演)	火4	
		健康まちづくり・アクションゼミ-b	川端 悠	2	1	(演)	火4	
		今のリアルから未来を読み解き社会に問う-a	市田 秀樹	2	1	(演)	火4	
		今のリアルから未来を読み解き社会に問う-b	市田 秀樹	2	1	(演)	火4	
		フランスの社会と文化-a	小澤 真	2	1	(演)	火4	
		フランスの社会と文化-b	小澤 真	2	1	(演)	火4	
		謎解きの古書体学に挑戦してみよう!!-a	佐々木 博光	2	1	(演)	火4	
		謎解きの古書体学に挑戦してみよう!!-b	佐々木 博光	2	1	(演)	火4	
		大学で学び考える基本を身につけよう!-a	飯吉 弘子	2	1	(演)	火4	
		大学で学び考える基本を身につけよう!-b	飯吉 弘子	2	1	(演)	火4	
		興味関心を「縦と横と」に編み上げる-a	平 知宏	2	1	(演)	火4	
		興味関心を「縦と横と」に編み上げる-b	平 知宏	2	1	(演)	火4	
		GISを使って地域のことを考えよう-a	根本 達也	2	1	(演)	火5	
		GISを使って地域のことを考えよう-b	根本 達也	2	1	(演)	火5	
		不思議な粉の世界について知ろう	野村 俊之	2	1	(演)	火5	
		どのようにつくる?これからのエネルギー	岡本 尚樹	2	1	(演)	火5	
身のまわりの物質科学-a	笠井 秀隆	2	1	(演)	火5			
身のまわりの物質科学-b	森 茂生	2	1	(演)	火5			
生薬の効能は科学的に裏付けられているか	小川 拓水	2	1	(演)	火5			
生物と環境を元素の観点から考える	反田 直之	2	1	(演)	火5			
認知症の人にもやさしいまちを考える-a	小松 亜弥音	2	1	(演)	火5			
認知症の人にもやさしいまちを考える-b	小松 亜弥音	2	1	(演)	火5			
コンピュータで探る分子の世界-a	麻田 俊雄	2	1	(演)	火5			
コンピュータで探る分子の世界-b	麻田 俊雄	2	1	(演)	火5			
血液の病から考える医療と社会-a	中前 博久	2	1	(演)	火5			
血液の病から考える医療と社会-b	中前 博久	2	1	(演)	火5			
マーケティングで流行と衰退を考える-a	藪野 祥太	2	1	(演)	木2			
マーケティングで流行と衰退を考える-b	藪野 祥太	2	1	(演)	木2			
物理学の世界をのぞいてみよう-a	小菅 厚子	2	1	(演)	木2			
物理学の世界をのぞいてみよう-b	小菅 厚子	2	1	(演)	木2			
化石を調べよう-a	桑原 希世子	2	1	(演)	木3			
化石を調べよう-b	桑原 希世子	2	1	(演)	木3			

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

●-a、-bは同じテーマで2グループ開講されます。

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態	開講キャンパスおよび開講期	
							森之宮	
							前期	後期
初年次教育科目	初年次ゼミナール	都市から学ぶ社会問題-a	川野 英二	2	1	(演)	木4	
		都市から学ぶ社会問題-b	川野 英二	2	1	(演)	木4	
		社会科学で世の中を捉える-a	中本 龍市	2	1	(演)	木4	
		社会科学で世の中を捉える-b	中本 龍市	2	1	(演)	木4	
		学校教育の〈縁側〉を/から考える-a	鈴木 伸尚	2	1	(演)	木4	
		学校教育の〈縁側〉を/から考える-b	鈴木 伸尚	2	1	(演)	木4	
		数学と社会との繋がりについて考えよう-a	川添 充	2	1	(演)	木4	
		数学と社会との繋がりについて考えよう-b	川添 充	2	1	(演)	木4	
		思考実験:科学から身近な社会課題まで-a	譚 ゴオン	2	1	(演)	木4	
		思考実験:科学から身近な社会課題まで-b	譚 ゴオン	2	1	(演)	木4	
		DNAで生き物の名前を調べてみよう-a	小林 康一	2	1	(演)	木4	
		DNAで生き物の名前を調べてみよう-b	小林 康一	2	1	(演)	木4	
		正解のない時代をどう考えるか-AIと創作-a	林 宣伶	2	1	(演)	木4	
		正解のない時代をどう考えるか-AIと創作-b	林 宣伶	2	1	(演)	木4	
		遊びと人間ー遊びについて考えよう-a	亀喜 信	2	1	(演)	木4	
		遊びと人間ー遊びについて考えよう-b	亀喜 信	2	1	(演)	木4	
		〈地域活性化〉の未来を考える-a	水野 遼太郎	2	1	(演)	木4	
		〈地域活性化〉の未来を考える-b	水野 遼太郎	2	1	(演)	木4	
		森之宮キャンパスあたりの地誌学-a	菅野 拓	2	1	(演)	木5	
		森之宮キャンパスあたりの地誌学-b	菅野 拓	2	1	(演)	木5	
		近世・近代の法制度から現代を考える-a	安竹 貴彦	2	1	(演)	木5	
		近世・近代の法制度から現代を考える-b	安竹 貴彦	2	1	(演)	木5	
		民事判例を読む-a	古谷 貴之	2	1	(演)	木5	
		民事判例を読む-b	古谷 貴之	2	1	(演)	木5	
		科学的思考事始	中村 雅夫	2	1	(演)	木5	
		Aircraft in Disaster Response	アンドレア・バネッティ アドリアナ	2	1	(演)	木5	
		身の回りにおける動物の病気	井澤 武史	2	1	(演)	木5	
		老化とは何か	岩崎 忠	2	1	(演)	木5	
		今日の心臓手術-a	高橋 洋介	2	1	(演)	木5	
		今日の心臓手術-b	高橋 洋介	2	1	(演)	木5	
		高齢者の社会的孤立を考える	河野 あゆみ	2	1	(演)	木5	
		エビデンスで考える超高齢社会へのヒント	長畑 多代	2	1	(演)	木5	
		女性の健康にかかわる問題について考えよう	玉上 麻美	2	1	(演)	木5	
		縁起でもない話をしよう	三輪 恭子	2	1	(演)	木5	
		元素の科学-a	谷口 暢一	2	1	(演)	木5	
		元素の科学-b	谷口 暢一	2	1	(演)	木5	
		航空宇宙技術の社会的要請と未来技術-a	新井 隆景	2	1	(演)	金2	
		航空宇宙技術の社会的要請と未来技術-b	新井 隆景	2	1	(演)	金2	
		建築の世界-a	石山 央樹	2	1	(演)	金2	
		建築の世界-b	石山 央樹	2	1	(演)	金2	
		対称性を科学する	宍戸 寛明	2	1	(演)	金2	
		科学技術と安全性について考える	和田 健司	2	1	(演)	金2	
		食と健康と社会-a	松村 成暢	2	1	(演)	金3	
		食と健康と社会-b	松村 成暢	2	1	(演)	金3	
		「なにわ」の謎を解き明かす-a	大塚 耕司	2	1	(演)	金4	
「なにわ」の謎を解き明かす-b	大塚 耕司	2	1	(演)	金4			
キャンパス周辺に潜む災害リスク-a	伊藤 康人	2	1	(演)	金4			
キャンパス周辺に潜む災害リスク-b	伊藤 康人	2	1	(演)	金4			
家族介護とヤングケアラー-a	濱島 淑恵	2	1	(演)	金4			
家族介護とヤングケアラー-b	濱島 淑恵	2	1	(演)	金4			
社会の諸問題について調べ、知識を広げる-a	谷 政敏	2	1	(演)	金4			
社会の諸問題について調べ、知識を広げる-b	谷 政敏	2	1	(演)	金4			

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

●-a、-bは同じテーマで2グループ開講されます。

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態	開講キャンパスおよび開講期	
							森之宮	
							前期	後期
初年次教育科目	初年次ゼミナール	感想文からレポートへ-a	森 瑞季	2	1	(演)	金4	
		感想文からレポートへ-b	森 瑞季	2	1	(演)	金4	
		地方自治とインフラ事業の未来を考える	高野 恵亮	2	1	(演)	金4	
		官民連携とまちづくりについて考える	佐野 修久	2	1	(演)	金4	
		街づくりにおける地域熱供給の役割-a	鍋島 美奈子	2	1	(演)	金4	
		街づくりにおける地域熱供給の役割-b	鍋島 美奈子	2	1	(演)	金4	
		SFにおける科学-a	岡本 晃一	2	1	(演)	金4	
		SFにおける科学-b	岡本 晃一	2	1	(演)	金4	
		古墳と環境について考える	中村 彰宏	2	1	(演)	金4	
		まちを観て読み解くLandscape Design	松尾 薫	2	1	(演)	金4	
		メタ認知を促す学習環境をつくってみよう-a	土肥 美子	2	1	(演)	金4	
		メタ認知を促す学習環境をつくってみよう-b	水引 智央	2	1	(演)	金4	
		「働く」を科学的に考える-a	中村 志津香	2	1	(演)	金4	
		「働く」を科学的に考える-b	中村 志津香	2	1	(演)	金4	
		母語としての日本語・L2としての日本語-a	森田 耕平	2	1	(演)	金4	
		母語としての日本語・L2としての日本語-b	森田 耕平	2	1	(演)	金4	
		情報通信ネットワークのしくみとその役割-a	関 勇弥	2	1	(演)	金5	
		情報通信ネットワークのしくみとその役割-b	関 勇弥	2	1	(演)	金5	
		はじめての数理モデリング-a	山岡 直人	2	1	(演)	金5	
		はじめての数理モデリング-b	山岡 直人	2	1	(演)	金5	
		衝突安全性と自動車技術の未来を考える-a	楳田 努	2	1	(演)	金5	
		衝突安全性と自動車技術の未来を考える-b	楳田 努	2	1	(演)	金5	
		植物の品種改良について考えよう	手塚 孝弘	2	1	(演)	金5	
		進化を味わう:生物多様性と育種の科学	白柿 薫平	2	1	(演)	金5	
		見えない分子が生物を動かす-a	秋山 康紀	2	1	(演)	金5	
		見えない分子が生物を動かす-b	榊谷 貴洋	2	1	(演)	金5	
		健康医療を支えるくすりと医療機器の科学-a	田中 大祐	2	1	(演)	金5	
		健康医療を支えるくすりと医療機器の科学-b	田中 大祐	2	1	(演)	金5	
		左手と右手の分子:キラリティーの不思議-a	小島 秀夫	2	1	(演)	金5	
		左手と右手の分子:キラリティーの不思議-b	小島 秀夫	2	1	(演)	金5	
		バイオテクノロジーについて考えよう-a	横山 智哉子	2	1	(演)	金5	
		バイオテクノロジーについて考えよう-b	横山 智哉子	2	1	(演)	金5	
		初めての多文化コミュニケーション-a	モハンマド モインウッディン	2	1	(演)	火3	
		初めての多文化コミュニケーション-b	モハンマド モインウッディン	2	1	(演)	火3	
		現代日本における文化的多様性の探究-a	中野 遼子	2	1	(演)	木5	
		現代日本における文化的多様性の探究-b	中野 遼子	2	1	(演)	木5	
		<再履修クラス(2年次以上)>	橋本 智也	2	2	(演)	火4	
		<再履修クラス(2年次以上)>	西垣 順子	2	2	(演)	水5	
	<再履修クラス(2年次以上)>	深野 政之	2	2	(演)	割外		
	高年次ゼミナール	高年次ゼミナール	畑野 快	2	2	(演)	集中	
		高年次ゼミナール	橋本 智也	2	2	(演)	集中	
	プロジェクト	キャリアと実践1	山東 功	2	2	(演)		集中
		プレゼンテーション技法	橋本 智也	2	2	(演)	火2	
		プレゼンテーション技法	野口 典正	2	2	(演)		火2
		キャリアと実践2	市田 秀樹	2	2	(演)	集中	

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

●-a、-bは同じテーマで2グループ開講されます。

※UNIPA抽選申請対象外科目

3. 情報科目

情報科目は、情報機器を利活用する際に必要となる情報処理の基礎的な知識と技能に加え、インターネットによるコミュニケーション手法や情報化社会に参画するための情報倫理、授業や研究で使用する各種ツールまたはデータ処理や AI の基礎を身に付けることを目的としています。

〔カリキュラム概要〕

大学や社会で必要となる情報処理の基礎的な知識と技能に加え、インターネットによるコミュニケーション手法や情報化社会に参画するための情報倫理、授業や研究で使用する各種ツールまたはデータ処理や AI の基礎について文系・理系を問わず共通に身につけることを目的に、1年次科目として「情報リテラシー」「データエンジニアリング・AI基礎」を開講します。

〔科目の構成〕

- 「情報リテラシー」「データエンジニアリング・AI基礎」は1年次前期に開講します。いずれか一方を履修してください（いずれか一方しか履修登録できません。また一方の単位を修得した後、他方は履修できません）。
- 「情報リテラシー」は自分の所属する学部・学科、学域・学類向けのクラスを履修してください。他学科等向けのクラスは履修できません。

〔履修上の注意〕

- 確認テスト以外はすべてオンデマンド（非同期オンライン）授業です。
- オンデマンド授業はいつでも受講してもかまいませんが、毎週課題の提出が必要です。課題や教材は毎週 Moodle で公開されます。
- 確認テストは教室で対面実施します。確認テストの実施時期は以下の通りです。詳細日程は Moodle で通知します。
 情報リテラシー：通常授業期間内（時間割に記載の曜日・時限）
 データエンジニアリング・AI基礎：夏季休業中
- 確認テストを受験するには物理キーボード付きのノート PC が必要です。使用可能な PC の条件は Moodle に掲載するので必ず確認してください。
- 授業に関する連絡はすべて Moodle で行いますが、緊急連絡はメールでします。

〔2026年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス (別途掲示)	開講キャンパス および開講期		備考
							森之宮		
							前期	後期	
情報科目	1GCA001	情報リテラシー	2	2	(演)	(別途掲示)	○		
	1GCA001	情報リテラシー	2	2	(演)	(別途掲示)		○	再履修クラス
	1GCA002	データエンジニアリング・AI基礎	2	2	(演)	/	○		

- 情報科目の配当年次は1年次です。
- (講)は講義、(演)は演習の授業形態を表します。

4. 外国語科目（英語・初修外国語）

4-1. 英語

〔カリキュラム概要〕

世界共通語としての英語の4技能（Reading、Listening、Writing、Speaking）について、一定の能力を身に付けることはグローバル化した世界では非常に重要です。自立的英語使用者および自律的英語学修者の育成を目的とし、卒業までに学生が一定レベル（CEFR* B1 以上）に達することを目指して、1年次で8単位（必修）、2年次で4単位の科目「University English」を提供します。

1年次には、4技能に関わる基礎的な能力を、それぞれインプットからアウトプットの流れを重視する中で養成し強化します。さらには、学生の言語活動に対する自信、異文化への認識およびクリティカル・シンキングの能力の育成を目指します。

2年次には、1年次で修得した各スキルを発展させ、各学生の専門課程への橋渡しとなる英語読解能力を養い、さらに、研究レポート作成およびプレゼンテーションと質疑応答のスキルを学生が身に付けることを目指します。

2年間の「University English」を通じて、最終的には、アカデミックなコンテキストにおいて高度な英文読解ができ、自信を持ってライティングとプレゼンテーションができる学生の育成を目指します。

その他、「University English」に加えて、少人数規模での選択科目を展開します。選択科目では、学生の伸ばしたい特定のスキルの修得や関心のある分野の理解を深めるための科目を提供するとともに、短期海外語学研修や長期留学を計画する学生のニーズに対応するための科目も提供します。

*CEFR：Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）

〔科目の構成〕

- 1年次は必修科目として、「University English 1A（前期：リーディング・ライティング中心）」・「University English 1B（前期：プレゼンテーションスキルの修得中心）」・「University English 2A（後期：リーディング・ライティング中心）」・「University English 2B（後期：プレゼンテーションスキルの修得中心）」で構成されています。
- 2年次科目は、「University English 3A（前期または後期：リーディング・ライティング中心）」・「University English 3B（前期または後期：プレゼンテーションスキルの修得中心）」学部・学域によって必修、選択が異なりますので、所属学科の要覧を確認してください。
- 「University English」は学部・学域等によりクラス指定されますので、学生は所定のクラスを学生ポータル（UNIPA）で履修登録してください。クラス分けについては、別途掲示します。
- 「Media English」・「Writing A」・「Writing B」・「TOEFL A」・「TOEFL B」・「TOEIC L & R」・「海外語学研修 A」・「海外語学研修 B」・「海外活動（留学・ビジネス）準備コース」・「Discussion」・「Reading」・「Literature」・「Comparative Culture」・「ESD** A」・「ESD B」・「Presentation」・「Communicative Grammar」は全て選択科目です。自分の興味、関心に応じて選択科目を履修してください。
「Writing A」・「Presentation」は後期開講で、それぞれ「University English 1A」・「University English 1B」の修得が履修条件となります。また、「Writing B」の履修ができるのは3年次からとなります。他の選択科目についても、履修の目安を記載している場合があるので、履修登録をする前に各シラバスをよく確認してください。
**ESD：Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）

〔履修上の注意〕

● English Portfolio について

さまざまな活動を記録・蓄積していくためのシステムです。入学時にはまず English Portfolio の「Passport」にアクセスし、CEFR の CAN-DO チェックリストを用いて、自分の現在の英語力を自己評価しましょう。

また、取得済みの英語資格やスコアもあわせて入力し、自身の英語力を客観的に示す「Passport」を作成してください。その後は卒業まで、English Portfolio を活用しながら、日々の学習や英語活動を定期的に振り返り、「これまでに何をどのように学び、どのような力を身につけてきたか」といった自身の学修の軌跡と現在の到達点を可視化していきましょう。

その上で、「Biography」で自分の学修計画を立てて実行したり、「Dossier」で授業での成果物や資格証明書を保存・管理したりするなど、English Portfolio を自律的な学修のツールとして積極的に役立ててください。

● Learning Goals Reflection について

必修科目「University English 1A、1B、2A、2B」では、科目の学修目標に対して自分がどれくらい達成できているかを、Reflective Activity Statements（ふり返りのための記述文）を用いて定期的に自己評価します。

これらの記述文は、English Portfolio 内の「Biography」にも含まれており、学修計画を立てる際の指針として活用することができます。自己評価を通じて、自身の学びをふり返り、今後の学修に対する気づきや目標設定につなげていきましょう。

● 外国語科目（英語）の単位認定について

TOEIC スコア等が一定レベル以上の場合、英語科目の単位認定を行う制度があります。詳細は、本冊子の P 10 を参照してください。なお、認定された科目は履修することができないので注意してください。

〔TOEIC テストの受験について〕

大阪公立大学生協同組合が実施する「TOEIC® Listening & Reading IP テスト」（オンライン）を受験してください。

受験方法等の詳細は、生協からの案内等を参照し、各自で申し込みをしてください。受験時期については、1 年次の前期（4 月）、後期（1 月）および 2 年次後期（1 月）の計 3 回を推奨します。

なお、**1 年次後期（1 月）のスコアは、「University English 2A」の評価に含みます。**（成績採用率については、シラバスを参照してください）。申込時期は、入学前の 3 月から入学後の 4 月初旬までの 1 回だけとなりますので、留意してください。

4-2. 初修外国語

〔カリキュラム概要〕

初修外国語とは大学に入学して初めてゼロから学ぶ外国語という意味です。大阪公立大学では朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語の5言語を初修外国語科目として提供しています。

多様な言語、多様な文化を持つ人々が共に働き共に生きる21世紀の社会を構成する市民として、英語以外の新しい言語の学習は不可欠です。21世紀の社会を構成する市民として、複言語・複文化の理念のもと、新しい言語の学習を通じて異なる言語や文化にもとづく社会の間はもとより、同じ言語や文化の人々の間も橋渡しする能力の基礎を身につけます。また、成人として自ら選んだ新しい言語の学習を通じて自律学習を行う方法を学びます。

それぞれの言語の紹介については、新入生用Webサイト『新入生ナビ』（ホーム＞教育・学生生活＞新入生のみなさまへ）で配布されているPDF版の『初修外国語履修ガイド』をご覧ください。新入生オリエンテーションの動画においても、それぞれの言語の紹介をしています。

〔科目の構成〕

初修外国語は学部学科学域学類によって卒業に必要なかどうか、卒業に必要な場合は何単位必要かが異なります。それぞれの学部学域の『要覧』を見て下さい。

新しい言語を学び始める時に1クラスの数が多すぎるのはよくありませんので、初修外国語には抽選があります。第1希望と第2希望の言語を選んでください。

<1年次の3コース>

- 1年次の初修外国語には週1回コース、週2回コース、週3回コースがあります。
所属する学部・学域によって選択できるコースが決まっています。
- 週1回コースは新しい言語に親しむコースです。前期の単位が取れなくてもそのまま後期を履修できます。

前期	後期
〇〇語入門1	〇〇語入門2

- 週2回コースは文法と会話の2つの観点から学びます。それぞれの授業は独立して成績がつけられます。また、前期の単位が取れなくてもそのまま後期を履修できます。

前期	後期
〇〇語入門A（基礎）	〇〇語初級A（基礎）
〇〇語入門B（会話）	〇〇語初級B（会話）

※A（基礎）は文法中心です。

- 週3回コースは緊密に連携した週2回セットの基礎と週1回の応用です。前期の単位が修得できないと、後期は履修できません。

前期	後期
〇〇語基礎1	〇〇語基礎2
〇〇語基礎1	〇〇語基礎2
〇〇語応用1	〇〇語応用2

〔学部・学域ごとの配当コース〕

文学部 法学部	必修	週 3 回コース
商学部	必修 選択	1 年次：週 2 回コース 2 年次：中級クラス
経済学部	選択	週 2 回コース
理学部	必修	週 1 回コース
医学部（医学科・リハビリテーション学科） 看護学部 獣医学部 工学部 現代システム科学域	選択	週 1 回コース
農学部（緑地環境科学科・応用生物科学科）	必修	週 1 回コース
農学部（生命機能化学科）	選択	週 1 回コース
生活科学部（人間福祉学科）	必修	週 1 回コース
生活科学部（食栄養学科・居住環境学科）	選択	週 1 回コース

＜更に学びたい人のために＞

1 年次で学んだ初修外国語を更に学びたい人のために、2 年次では選択科目として特修が設けられています。特修を履修するには 1 年次前期に 2 単位以上修得、かつ 1 年次後期に 2 単位以上の単位を修得していることが必要です。特修の前期科目と後期科目は独立しています。前期だけ後期だけの履修が可能です。また 1 学期に複数の特修を履修することもできます。

選択科目として海外語学研修があります。夏季休業などの長期休暇を利用してその言語が話されている地域に行き学びます。

〔履修上の注意〕

- 初修外国語科目はゼロから始める外国語科目という意味ですから、自分の第一言語（母語）を初修外国語科目として履修することはできません。
- 日本語を第一言語（母語）としない学生は、特例科目（外国人留学生および日本語を母語としない学生を対象にした日本語科目）を履修し単位を修得した場合、初修外国語の単位として認定することができます。
- 朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語は第一言語（母語）ではないが、朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語を学んだことのある人で、指定するレベル以上の場合、申請して面接試験等に合格すれば、1 年次科目（入門・初級・基礎・応用）の履修を免除し、1 年次より 2 年次科目（中級レベル）を履修できます。
ただし、1 年次科目の履修を免除するだけであって、単位が与えられるわけではありません。詳細は新入生用 Web サイト『新入生ナビ』（ホーム＞教育・学生生活＞新入生のみなさまへ）に掲載されている「外国語科目（初修外国語）の入門初級科目の履修免除」を見て下さい。なお、入門初級履修免除に合格した言語の 1 年次科目（入門・初級・基礎・応用）は履修することができないので注意してください。

〔2026年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパス および開講期		備考	
							森之宮			
							前期	後期		
外国語科目	ドイツ語	1GDB001	ドイツ語入門1	2	2	(演)		○	週1回コース	
		1GDB002	ドイツ語入門2	2	2	(演)		○		
		1GDB003	ドイツ語入門A(基礎)	2	2	(演)		○	週2回コース	
		1GDB004	ドイツ語入門B(会話)	2	2	(演)		○		
		1GDB005	ドイツ語初級A(基礎)	2	2	(演)		○		
		1GDB006	ドイツ語初級B(会話)	2	2	(演)		○		
		1GDB007	ドイツ語中級1	2	2	(演)		○	商学部専用2年次配当科目	
		1GDB008	ドイツ語中級2	2	2	(演)		○		
		1GDB009	ドイツ語基礎1	4	4	(演)		○	週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要	
		1GDB010	ドイツ語基礎2	4	4	(演)		○		
		1GDB011	ドイツ語応用1	2	2	(演)		○		応用2の履修には応用1の単位修得が必要
		1GDB012	ドイツ語応用2	2	2	(演)		○		
		1GDB013	ドイツ語特修A	2	2	(演)	全	○	2年次配当科目/ 履修には、1年次前期のドイツ語で2単位以上、かつ1年次後期のドイツ語で2単位以上、計4単位以上の単位修得が必要	
		1GDB014	ドイツ語特修B	2	2	(演)	全	○		
		1GDB015	ドイツ語特修C	2	2	(演)	全	○		
		1GDB016	ドイツ語特修D	2	2	(演)	全	○		
		1GDB017	ドイツ語特修E	2	2	(演)	全	○		
		1GDB018	ドイツ語特修F	2	2	(演)	全	○		
		1GDB019	ドイツ語特修G	2	2	(演)	全	○		
		1GDB020	ドイツ語特修H	2	2	(演)	全	○		
	1GDB021	ドイツ語海外語学研修	2	2	(演)	全	○	CAP対象外/2年次配当科目/ 通年集中講義/※		
	1GDB001	ドイツ語入門1	2	2	(演)	全	○	再履修クラス		
	1GDB002	ドイツ語入門2	2	2	(演)	全	○	2年次配当科目/再履修クラス		
	フランス語	フランス語	1GDC001	フランス語入門1	2	2	(演)		○	週1回コース
			1GDC002	フランス語入門2	2	2	(演)		○	
			1GDC003	フランス語入門A(基礎)	2	2	(演)		○	週2回コース
			1GDC004	フランス語入門B(会話)	2	2	(演)		○	
			1GDC005	フランス語初級A(基礎)	2	2	(演)		○	
			1GDC006	フランス語初級B(会話)	2	2	(演)		○	
			1GDC007	フランス語中級1	2	2	(演)		○	商学部専用2年次配当科目
			1GDC008	フランス語中級2	2	2	(演)		○	
			1GDC009	フランス語基礎1	4	4	(演)		○	週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要
			1GDC010	フランス語基礎2	4	4	(演)		○	
		1GDC011	フランス語応用1	2	2	(演)		○	応用2の履修には応用1の単位修得が必要	
		1GDC012	フランス語応用2	2	2	(演)		○		
		1GDC013	フランス語特修A	2	2	(演)	全	○	2年次配当科目/ 履修には、1年次前期のフランス語で2単位以上、かつ1年次後期のフランス語で2単位以上、計4単位以上の単位修得が必要	
		1GDC014	フランス語特修B	2	2	(演)	全	○		
		1GDC015	フランス語特修C	2	2	(演)	全	○		
		1GDC016	フランス語特修D	2	2	(演)	全	○		
		1GDC017	フランス語特修E	2	2	(演)	全	○		
		1GDC018	フランス語特修F	2	2	(演)	全	○		
		1GDC019	フランス語特修G	2	2	(演)	全	○		
1GDC020		フランス語特修H	2	2	(演)	全	○			
1GDC021		フランス語海外語学研修A	2	2	(演)	全	○	CAP対象外/通年集中講義/※		
1GDC022		フランス語海外語学研修B	2	2	(演)	全	○	CAP対象外/2年次配当科目/ 通年集中講義/※		
1GDC001	フランス語入門1	2	2	(演)	全	○	再履修クラス			
1GDC002	フランス語入門2	2	2	(演)	全	○	2年次配当科目/再履修クラス			

●選択できるコースは、P33～P34の「カリキュラム概要」の「学部・学域ごとの配当コース」の表を参照してください。

●備考欄に配当年次が記載されていない科目は1年次配当です。

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

※UNIPA履修登録対象外科目

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパス および開講期		備考		
							森之宮				
							前期	後期			
外国語科目	中国語	1GDD001	中国語入門1	2	2	(演)	〈別途揭示〉	○		週1回コース	
		1GDD002	中国語入門2	2	2	(演)			○		
		1GDD003	中国語入門A(基礎)	2	2	(演)		○		週2回コース	
		1GDD004	中国語入門B(会話)	2	2	(演)		○			
		1GDD005	中国語初級A(基礎)	2	2	(演)			○		
		1GDD006	中国語初級B(会話)	2	2	(演)			○		
		1GDD007	中国語中級1	2	2	(演)		○		商学部専用2年次配当科目	
		1GDD008	中国語中級2	2	2	(演)			○		
		1GDD009	中国語基礎1	4	4	(演)		○		週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要	
		1GDD010	中国語基礎2	4	4	(演)			○		
		1GDD011	中国語応用1	2	2	(演)		○			応用2の履修には応用1の単位修得が必要
		1GDD012	中国語応用2	2	2	(演)			○		
		1GDD013	中国語特修A	2	2	(演)		全	○	2年次配当科目/ 履修には、1年次前期の中国語で2単位以上、かつ1年次後期の中国語で2単位以上、計4単位以上の単位修得が必要	
		1GDD014	中国語特修B	2	2	(演)		全			○
		1GDD015	中国語特修C	2	2	(演)		全	○		
		1GDD016	中国語特修D	2	2	(演)		全			○
		1GDD017	中国語特修E	2	2	(演)		全	○		
		1GDD018	中国語特修F	2	2	(演)		全			○
		1GDD019	中国語特修G	2	2	(演)		全	○		
		1GDD020	中国語特修H	2	2	(演)		全			○
		1GDD021	中国語海外語学研修A	2	2	(演)		全	○	○	CAP対象外/通年集中講義/※
		1GDD022	中国語海外語学研修B	2	2	(演)		全	○	○	CAP対象外/2年次配当科目/ 通年集中講義/※
1GDD001	中国語入門1	2	2	(演)	全		○	再履修クラス			
1GDD002	中国語入門2	2	2	(演)	全	○		2年次配当科目/再履修クラス			
ロシア語	ロシア語	1GDE001	ロシア語入門1	2	2	(演)	〈別途揭示〉	○		週1回コース	
		1GDE002	ロシア語入門2	2	2	(演)			○		
		1GDE003	ロシア語入門A(基礎)	2	2	(演)		○		週2回コース	
		1GDE004	ロシア語入門B(会話)	2	2	(演)		○			
		1GDE005	ロシア語初級A(基礎)	2	2	(演)			○		
		1GDE006	ロシア語初級B(会話)	2	2	(演)			○		
		1GDE007	ロシア語中級1	2	2	(演)		○		商学部専用2年次配当科目	
		1GDE008	ロシア語中級2	2	2	(演)			○		
		1GDE009	ロシア語基礎1	4	4	(演)		○		週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要	
		1GDE010	ロシア語基礎2	4	4	(演)			○		
		1GDE011	ロシア語応用1	2	2	(演)		○			応用2の履修には応用1の単位修得が必要
		1GDE012	ロシア語応用2	2	2	(演)			○		
		1GDE013	ロシア語特修A	2	2	(演)		全	○	2年次配当科目/ 履修には、1年次前期のロシア語で2単位以上、かつ1年次後期のロシア語で2単位以上、計4単位以上の単位修得が必要	
		1GDE014	ロシア語特修B	2	2	(演)		全			○
		1GDE015	ロシア語特修C	2	2	(演)		全	○		
		1GDE016	ロシア語特修D	2	2	(演)		全			○
		1GDE017	ロシア語海外語学研修	2	2	(演)		全	○		○
		1GDE001	ロシア語入門1	2	2	(演)		全		○	再履修クラス
		1GDE002	ロシア語入門2	2	2	(演)		全	○		2年次配当科目/再履修クラス

- 選択できるコースは、P33～P34の「カリキュラム概要」の「学部・学域ごとの配当コース」の表を参照してください。
- 備考欄に配当年次が記載されていない科目は1年次配当です。
- (講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。
- ※ UNIPA履修登録対象外科目

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパス および開講期		備考
							森之宮	前期 後期	
外国語科目	朝鮮語	1GDF001	朝鮮語入門1	2	2	(演)		○	週1回コース
		1GDF002	朝鮮語入門2	2	2	(演)		○	
		1GDF003	朝鮮語入門A(基礎)	2	2	(演)		○	週2回コース
		1GDF004	朝鮮語入門B(会話)	2	2	(演)		○	
		1GDF005	朝鮮語初級A(基礎)	2	2	(演)		○	
		1GDF006	朝鮮語初級B(会話)	2	2	(演)		○	
		1GDF007	朝鮮語中級1	2	2	(演)		○	商学部専用2年次配当科目
		1GDF008	朝鮮語中級2	2	2	(演)		○	
		1GDF009	朝鮮語基礎1	2	2	(演)		○	週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要 応用2の履修には応用1の単位修得が必要
		1GDF010	朝鮮語基礎2	2	2	(演)		○	
	1GDF011	朝鮮語応用1	2	2	(演)		○		
	1GDF012	朝鮮語応用2	2	2	(演)		○		
	1GDF013	朝鮮語特修A	2	2	(演)	全	○	2年次配当科目/ 履修には、1年次前期の朝鮮語で2単位以上、かつ1年次後期の朝鮮語で2単位以上、計4単位以上の単位修得が必要	
	1GDF014	朝鮮語特修B	2	2	(演)	全	○		
	1GDF015	朝鮮語特修C	2	2	(演)	全	○		
	1GDF016	朝鮮語特修D	2	2	(演)	全	○		
	1GDF019	朝鮮語特修E	2	2	(演)	全	○		
	1GDF020	朝鮮語特修F	2	2	(演)	全	○		
	1GDF021	朝鮮語特修G	2	2	(演)	全	○		
	1GDF022	朝鮮語特修H	2	2	(演)	全	○		
1GDF017	韓国語海外語学研修A	2	2	(演)	全	○	CAP対象外/通年集中講義/※		
1GDF018	韓国語海外語学研修B	2	2	(演)	全	○	CAP対象外/2年次配当科目/ 通年集中講義/※		
	1GDF001	朝鮮語入門1	2	2	(演)	全	○	再履修クラス	
	1GDF002	朝鮮語入門2	2	2	(演)	全	○	2年次配当科目/再履修クラス	

- 選択できるコースは、P33～P34の「カリキュラム概要」の「学部・学域ごとの配当コース」の表を参照してください。
- 備考欄に配当年次が記載されていない科目は1年次配当です。
- (講)は講義、(演)は演習の授業形態を表します。
- ※UNIPA履修登録対象外科目

5. 特例科目

〔カリキュラム概要〕

特例科目は、留学生および日本語が母語ではない学生が、第二言語としての日本語の能力を身につけることを目標にしています。具体的には、次のような能力です。

- ・日常生活の場面で、周りの状況や他者の話を理解し、自分の考えや経験を伝える能力
- ・大学で、学術的な活動（講義や資料の理解、レポートなどの文章の作成、質問や議論、プレゼンテーションなど）を十分に行なう能力
- ・就職活動やビジネスの場面で必要となる、実践的なコミュニケーションの能力

本科目では、それらの能力の養成を、学生のみなさんの日本語のレベルと学びたい技能（読む、書く、聞く、話す）に合わせて行ないます。また、それぞれのレベルや技能で必要となる、基本的な語彙や文法についても学びます。

〔科目の構成〕

自分の日本語のレベルと学びたい技能に合わせて、履修したい科目を選んでください。履修する年次や順番の指定はありません。ただし、明らかに自分のレベルに合わない科目を選ぶことは推奨しません。

- [日本語 1A、1B、1C、1D、2A、2B、2C、2D、3A、3B、3C、3D] について
 - ・科目名の 1、2、3 は、「学ぶ日本語のレベル」を表しています。1 は中級～中上級、2 は上級、3 は上級（応用）のレベルです。
 - ・科目名の A、B、C、D は「開講する学期」と「学ぶ技能の種類」を表しています。[日本語 C、D] は前期に、[日本語 A、B] は後期に開講します。[日本語 A、C] では「読む・書く」を、[日本語 B、D] では「聞く・話す」技能を学びます。
- [日本語演習 A、B] について
 - ・演習型の授業で、ビジネス場面などで必要となる実践的な日本語を学びます。
 - ・[日本語演習 A] は前期、[日本語演習 B] は後期に開講します。レベルは同じです。
- 対面授業と遠隔授業について
 - ・森之宮キャンパスで学ぶ学生は、対面授業を履修してください。
 - ・森之宮キャンパス以外のキャンパスで学ぶ学生は、遠隔（同期型）授業の [日本語 2A、2B、2C、2D] を履修することができます（森之宮キャンパスで対面授業を履修することもできます）。
- 履修する科目の例
 - (1) 一つの学期に一つの科目を履修する場合
 - ・前の学期と次の学期で、同じレベル、同じ技能の科目を履修することができます（例 1、2）。
 - ・違うレベル、違う技能の科目を履修することもできます（例 3～5）。

	前期	後期
例 1	日本語 1C	日本語 1A
例 2	日本語演習 A	日本語演習 B
例 3	日本語 1D	日本語 2B
例 4	日本語 3C	日本語 2A
例 5	日本語演習 A	日本語 3A

(2) 一つの学期に二つの科目を履修する場合

- ・ [日本語 A/C] (読む・書く) から一科目、[日本語 B/D] (聞く・話す) から一科目ずつ履修してください (例 6)。違うレベルの科目を履修することもできます (例 7)。
- ・ [日本語 A/B/C/D] の中から一科目、[日本語演習 A/B] から一科目履修することもできます (例 8)。

	前期	後期
例 6	日本語 1C 日本語 1D	日本語 1A 日本語 1B
例 7	日本語 1C 日本語 2D	日本語 1A 日本語 2B
例 8	日本語 3C 日本語演習 A	日本語 3B 日本語演習 B

- ・ 同じ学期に、同じ技能の科目を二つ履修することはできません (例 9、10)。

	前期	後期
例 9	日本語 1C 日本語 2C	日本語 1B 日本語 2B
例 10	日本語 2D 日本語 3D	日本語 2A 日本語 3A

- ※一つの学期に三つの科目を履修することもできます。その場合、[日本語 A/C] (読む・書く) から一科目、[日本語 B/D] (聞く・話す) から一科目、[日本語演習 A/B] から一科目ずつ履修してください (例 11)。

	前期	後期
例 11	日本語 2C 日本語 2D 日本語演習 A	日本語 3A 日本語 3B 日本語演習 B

〔履修上の注意〕

- ・ 日本語を母語とする学生は履修できません。
- ・ 修得した単位を、初修外国語科目の単位としての認定を希望しない場合は、所属学部の教務担当に申し出てください。その場合、自由科目となり、卒業要件には算入されません。
- ・ 初回の授業には必ず出席してください。

〔2026年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期				備考
							森之宮		その他		
							前期	後期	前期	後期	
特例科目	1GEA007	日本語1C	2	2	(演)	全	○				・CAP対象外 ・卒業要件に算出しない場合は自由科目
	1GEA001	日本語1A	2	2	(演)			○			
	1GEA008	日本語1D	2	2	(演)		○				
	1GEA002	日本語1B	2	2	(演)			○			
	1GEA009	日本語2C	2	2	(演)		○		杉・中:遠隔		
	1GEA003	日本語2A	2	2	(演)			○		杉・中:遠隔	
	1GEA010	日本語2D	2	2	(演)		○		杉・中:遠隔		
	1GEA004	日本語2B	2	2	(演)			○		杉・中:遠隔	
	1GEA011	日本語3C	2	2	(演)		○				
	1GEA005	日本語3A	2	2	(演)			○			
	1GEA012	日本語3D	2	2	(演)		○				
	1GEA006	日本語3B	2	2	(演)			○			
	1GEA013	日本語演習A	2	2	(演)		○				
	1GEA014	日本語演習B	2	2	(演)			○			

●(講)は講義、(演)は演習の授業形態を表します。

●杉:杉本キャンパス 中:中百舌鳥キャンパス

6. 健康・スポーツ科学科目

〔カリキュラム概要〕

人生 100 年時代と言われるように高齢化が急速に進む我が国において、well-being（身体だけではなく、精神面、社会面も含めた、新しい本当の意味での健康的な状態）として、健康の在り方を理解し、実践することが重要であるとの認識のもと、選択必修科目として、「健康・スポーツ科学概論」（2 単位）および「健康・スポーツ科学演習」（2 単位）を開講します。本科目では、生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るために必要な知識や方法について、主としてスポーツを中心とした行動を通じて具体的、学術的に修得するとともに、健康科学やスポーツ文化が果たすべき役割について、理論と実践を通し理解を深めることを目的とします。

〔科目の構成〕

- 選択必修科目として、「健康・スポーツ科学概論」および「健康・スポーツ科学演習」で構成されています。
- 自分の所属する学部・学科、学域・学類向けのクラスを履修してください。他学部等向けのクラスは履修できません。
- 「健康・スポーツ科学概論」では、各教員の専門性を含んだ授業（講義）が展開されます。
- 「健康・スポーツ科学演習」では、各種のスポーツに分かれて授業（スポーツの実践を通じた理論的学修）が実施されます。

〔履修上の注意〕

- 健康・スポーツ科学演習（以下「演習」という）の授業内容、評価方法、履修上の注意に関する説明等を、第 1 週時のガイダンスにて行いますので、必ず出席してください。
- 演習では、各種目に定員があるため、各人の希望する種目を履修できない場合があります。
- 演習の履修にあたっては、健康診断を受診するなど健康状態の把握と健康管理に努めてください。また、各自で保険（学生教育研究災害障害保険〔学研災〕および同付帯保険や学生総合共済など）に加入しておいてください。
- 疾病・障がいおよび社会的障壁を有する学生で個別具体的な修学上の配慮・支援を必要とする場合には、P12 の「修学上の配慮・支援」を参照ください。

〔2026年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス (別途掲示)	開講キャンパス および開講期		備考
							森之宮 前期	後期	
健康・ スポーツ 科学科目	1GFA001	健康・スポーツ科学概論	2	2	(講)	(別途掲示)	○	○	同一年度内の再履修不可
	1GFB001	健康・スポーツ科学演習	2	2	(演)	(別途掲示)	○	○	同一年度内の再履修不可

- 健康・スポーツ科学科目の配当年次は1年次です。
- (講)は講義、(演)は演習の授業形態を表します。

7. 基礎教育科目

〔カリキュラム概要（全体）〕

それぞれの学問領域の基礎教育の中で、基幹教育として提供することがふさわしい自然科学系科目（情報系を含む）を基礎教育科目として提供します。学士課程教育において、科学の基本的能力として必要とされる学力と能力を養成するために、1～2年次に「数学」・「物理学」・「化学」・「生物学」・「地学」・「情報学」の基礎教育（講義・演習・実験）を開講します。それぞれの科目では、学士課程において必要な科学的基盤を身に付けるのみでなく、専門教育へもスムーズに接続できる知識・技能の修得を目指し、学部・学科、学域・学類の特性に応じて、必修科目または選択科目として配置します。

〔科目の構成（全体）〕

- 自分の所属する学部・学科、学域・学類向けのクラスを履修してください。他学科等向けの同名クラスは履修できません。また、再履修の際は、所属学部・学域に担当されたクラスを履修してください。
なお、履修希望者が多数となった場合は、履修者制限を行う場合があります。また、各クラスの教科書、試験・成績評価、関連科目等を含む詳細な情報は、シラバスを参照してください。

〔履修上の注意（全体）〕

- 実験を履修する場合は、各自で責任をもって保険（学生教育研究災害傷害保険〔学研災〕および同付帯保険や学生総合共済など）に加入しておいてください。
※履修に際して、加入有無の確認は行いませんので留意してください。

7-1. 数学

〔カリキュラム概要〕

数学は科学的論理的にものごとを捉えようとする全ての分野において基礎となる学問であり、文系理系を問わず学生にとってきわめて重要な科目です。基礎教育科目の数学では、各学生の専門課程での学びの基礎となる線形代数、微積分、微分方程式に関する科目だけでなく、数学的な考え方や活用方法を身に付けるための科目や、統計的な考え方や基本的な統計手法を身に付けるための科目を、学部・学科、学域・学類の特性に応じて、必修科目または選択科目として配置します。

〔科目の構成〕

主に1年次配当科目として、「微積分 1A、1B、2」・「線形代数 1、2A、2B」・「数学 1、2」・「基礎数学 A、B」・「数学リテラシー1、2」・「統計学基礎 1、2」、2年次またはそれ以降の配当科目として、「常微分方程式」・「複素解析」・「応用数学」・「ベクトル解析」・「数値解析」・「確率統計」で構成されています。学部・学科、学域・学類によって、配当の有無や配当年次、必修・選択は異なるので、学部・学科、学域・学類ごとの科目構成の詳細は『要覧』で確認してください。

7-2. 物理学

〔カリキュラム概要〕

物理学は、経験や実験事実を基に、自然界の法則を追求する学問です。したがって、物理学関連分野だけでなく、化学や生物学などを含むあらゆる自然科学の基礎をなすものです。今日の私たちの生活を豊かにしているさまざまな科学技術の発達も、物理学の発展無しには不可能であったと言っても過言ではありません。皆さんが理系のどのような分野に進まれるにしても、その専門分野を理解するためには、物理学の基礎を理解しておくことが不可欠です。

そこで、基礎教育科目として提供される物理学関連科目は、目的に応じて3つに大別される科目から構成されています。

〔科目の構成〕

大別	概要	科目名
専門基礎的科目	専門科目を学ぶ上で必要となる、物理学各分野（力学、電磁気学など）の基礎を学ぶ科目です。	（講義科目） 基礎力学 A1、A2、 B1、B2、B3、C 基礎電磁気学 A1、A2、C 基礎熱力学 近代物理学 基礎量子力学 A、B 基礎統計力学 基礎解析力学 （実験科目） 基礎物理学実験 1A、1B、1C 2A*、2B* 応用物理学実験** （演習科目） 基礎物理学演習
医療系向け科目	医療系で必要とされている分野に重きを置いて、物理学の基礎知識を学ぶ科目です。	物理学基礎
入門的科目	これまで物理学になじみが薄かった人を対象に、物理学について幅広く学ぶ入門的な科目です。	入門物理学 1、2 入門物理学実験

*「基礎物理学実験 2A、2B」は「基礎物理学実験 1A、1B」または「入門物理学実験」の内容に関する知識を前提とします。

**「応用物理学実験」の履修にあたっては、「基礎物理学実験 1B」の単位を修得していることを要します。

7-3. 化学

〔カリキュラム概要〕

化学は、さまざまな物質の構造と性質について実験と理論の両面から解明し、新しい化学反応の実現と優れた機能を持つ物質の設計・創造に取り組むことで、あらゆる先端科学の基盤となる学問です。また、環境やエネルギーといった現在人類が直面するさまざまな

課題を解決するうえで、物質を扱う化学の知識と技術が果たす役割は大きいといえるでしょう。基幹教育で化学的な知識・技術の基礎を学んでください。

〔科目の構成〕

国際基幹教育機構が提供する「化学」の基礎教育科目は、講義科目として「基礎無機・分析化学 A および B」・「基礎物理化学 A および B」・「基礎有機化学 A および B」・「基礎無機・物理化学」・「基礎有機化学」があります。また実験科目として「基礎化学実験」があります。学部・学科、学域・学類によって選択できる科目が異なるので履修登録の際は注意してください。

7-4. 生物学

〔カリキュラム概要〕

生物学に関連する科学や技術は、近年、目まぐるしく進展しています。バイオテクノロジーやゲノム編集、再生医療、生物多様性、地球温暖化などに関する話題を見たり聞いたりしない日はないといってもいいでしょう。生物学は、生物の一員である私たちの生活や、あらゆる生物をはぐくむ地球の環境問題とも密接な関わりをもつ科学分野です。「生物学」の基礎教育科目では、講義と実験を通して、生命の成り立ちから多様な生命現象までを幅広く学ぶことで、単なる知識の暗記に終わることなく、「生命」の多面的な理解に繋がる思考力や洞察力を身に付けることを目指します。

〔科目の構成〕

「生物学」の基礎教育科目には、講義科目である「生物学 1」・「生物学 2」・「生物学 A」・「生物学 B」と、実験科目である「生物学実験 A」・「生物学実験 B」があります。「生物学 1」では生物の変遷や生物と環境との関わり合い、「生物学 2」では生命現象に関わる物質や生物の構造を主に学びます。また、「生物学 A」では生物の構造と機能、「生物学 B」では分子生物学とそれに関連する生命科学を主に学びます。「生物学実験 A」と「生物学実験 B」では、生物学の研究に特有の実験方法や観察技術を習得します。

〔履修上の注意〕

「生物学 1」と「生物学 2」は、2つの科目を通して、生物学の基礎を幅広く学ぶための科目であるため、両方を履修することが望まれます。また、「生物学 A」と「生物学 B」の履修の前に、「生物学 1」と「生物学 2」を修得していることが望まれます。「生物学実験 A」と「生物学実験 B」は、いずれも、幅広く生物学における基礎的な実験手技を身に付けるためのものであり、共通の項目を含みます。

7-5. 地学

〔カリキュラム概要〕

地球学（地学）は、過去から現在に至る地球の実態を学際的に認識し、その未来を予測するための知識と技術を構築するための学問です。その取り扱う範囲は、火山活動や地震活動、岩石と鉱物、自然環境、地形、地球と生命の歴史、さまざまな資源やエネルギー、自然災害、地球環境問題など、多岐にわたっています。地球の真の姿を把握するためには、地球を構成する物質が物理・化学作用によって生起する現象の中から法則性を見出すとともに、さまざまな作用が相互に影響し、変遷を重ねてきた複雑なシステムとしての地球の

歴史を解明する必要があります。

私たちの住処である地球の歴史を知ることが、私たちの現在の生活、さらには未来の生活を構築し、守る上で重要な指針となります。地球学に関わる講義、実験では、固体地球に関する内容を中心に取り扱い、天文・気象分野の内容も一部含みます。地球学の基礎を習得できるようなカリキュラムを構成しています。

〔科目の構成〕

講義科目には、「地球学入門」・「地球学基礎 A」・「地球学基礎 B」があり、いずれも選択科目として提供されます。履修順序に指定はありません。実験科目には、「地球学実験 A」・「地球学実験 B」・「地球学実験 C」があります。

〔履修上の注意〕

高等学校での地学履修の有無は問いません。

また実験を履修するにあたっては高等学校の地学の履修の有無を問いませんが、「地球学基礎 A」・「地球学基礎 B」もしくは「地球学入門」を履修しているとより理解が深まります。

7-6. 情報学

〔カリキュラム概要〕

あらゆるところでコンピュータが利用される現代社会では、「情報」に関する知識や技術は広く必要とされています。本学では情報に関する基礎教育科目として、(1) コンピュータやネットワークの動作原理を修得する「情報システム概論」、(2) 大量のデータを効率的に蓄積・検索するためのデータベースや情報検索のしくみ等の修得を目的とする「データベースと情報検索」、(3) プログラミング能力を修得する「プログラミング入門 A・B」を開講し、大学での研究はもとより、社会に出てからも広く求められる知識・技術を修得します。

(なお、「プログラミング入門 A」は、各学部・学科、学域・学類で適したプログラミング言語を用いて学修する科目となっています)

〔科目の構成〕

これらの授業はすべて「情報リテラシー」または「データエンジニアリング・AI 基礎」の単位を修得していることを前提としています。

〈プログラミング入門について〉

「プログラミング入門 A」は自分の所属する学部・学科、学域・学類に向けたクラスを履修すること。他学科等向けの同名クラスは履修できません。「プログラミング入門 B」は、自分の所属する学部・学科、学域・学類に向けたクラスが開講されている場合はそのクラスを履修してください。開講されていない場合はどの「プログラミング入門 B」を履修しても構いません。

〔履修上の注意〕

授業は各自の PC を用いて行います。必要なソフトウェアのインストールなどについては授業中に指示します。

〔2026年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス （別途掲示）	開講キャンパスおよび開講期						備考		
							森之宮		杉本		中百舌鳥				
							前期	後期	前期	後期	前期	後期			
数学	1GGA001	基礎数学A	2	2	(講)	（別途掲示）	○								
	1GGA002	基礎数学B	2	2	(講)			○							
	1GGA003	数学リテラシー1	2	2	(講)		○								
	1GGA004	数学リテラシー2	2	2	(講)			○							
	1GGA005	数学1	2	2	(講)		○								
	1GGA006	数学2	2	2	(講)			○							
	1GGA007	微積分1A	2	2	(講)		○								
	1GGA008	微積分1B	4	4	(講)		○								
	1GGA009	微積分2	2	2	(講)			○							
	1GGA010	線形代数1	2	2	(講)		○								
	1GGA011	線形代数2A	2	2	(講)			○							
	1GGA012	線形代数2B	4	4	(講)			○							
	1GGA013	常微分方程式	2	2	(講)		○		○		○				
	1GGA014	複素解析	2	2	(講)			○					○		
	1GGA015	ベクトル解析	2	2	(講)		○				○				
	1GGA016	応用数学	2	2	(講)			○					○		
	1GGA017	数値解析	2	2	(講)			○							
	1GGA018	統計学基礎1	2	2	(講)		○				○				
	1GGA019	統計学基礎2	2	2	(講)			○					○		
	1GGA020	確率統計	2	2	(講)			○		○		○			
基礎教育科目 物理学	1GGB001	基礎力学A1	4	4	(講)	（別途掲示）	○								
	1GGB002	基礎力学A2	2	2	(講)			○							
	1GGB003	基礎力学B1	2	2	(講)		○	○							
	1GGB004	基礎力学B2	2	2	(講)			○			○	○			
	1GGB005	基礎力学B3	2	2	(講)						○				
	1GGB006	基礎力学C	2	2	(講)		○								
	1GGB007	基礎電磁気学A1	4	4	(講)			○							
	1GGB008	基礎電磁気学A2	2	2	(講)		○								
	1GGB009	基礎電磁気学C	2	2	(講)		○	○			○				
	1GGB010	基礎熱力学	2	2	(講)		○				○				
	1GGB011	近代物理学	2	2	(講)						○				
	1GGB012	基礎量子力学A	2	2	(講)			○					○		
	1GGB013	基礎量子力学B	2	2	(講)								○		
	1GGB014	基礎統計力学	2	2	(講)							○			
	1GGB015	基礎解析力学	2	2	(講)								○		
	1GGB016	物理学基礎	2	2	(講)		○								
	1GGB017	入門物理学1	2	2	(講)		○								
	1GGB018	入門物理学2	2	2	(講)			○							
	1GGB019	基礎物理学演習	2	2	(演)			○			○				
	1GGB020	基礎物理学実験1A	6	3	(実)		○	○							
	1GGB021	基礎物理学実験1B	4	2	(実)		○	○							
	1GGB026	基礎物理学実験1C	4	2	(実)		○	○							
	1GGB022	基礎物理学実験2A	6	3	(実)		○	○							履修には、「基礎物理学実験1A、1B」または「入門物理学実験」の内容に関する知識を前提とする
	1GGB023	基礎物理学実験2B	4	2	(実)										
	1GGB024	応用物理学実験	4	2	(実)						○	○			履修には、「基礎物理学実験1B」の単位修得が必要
1GGB025	入門物理学実験	4	2	(実)		○									

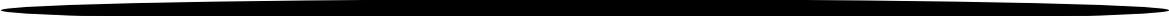
●学部・学科・学域・学類によって配当年次が異なるので、それぞれの『要覧』を確認してください。
 ●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期						備考			
							森之宮		杉本		中百舌鳥					
							前期	後期	前期	後期	前期	後期				
基礎教育科目	化学	1GGC001	基礎無機・分析化学A	2	2	(講)	〈別途揭示〉	○	○							
		1GGC002	基礎無機・分析化学B	2	2	(講)		○	○							
		1GGC003	基礎物理化学A	2	2	(講)		○								
		1GGC004	基礎物理化学B	2	2	(講)			○							
		1GGC005	基礎有機化学A	2	2	(講)		○								
		1GGC006	基礎有機化学B	2	2	(講)			○							
		1GGC007	基礎無機・物理化学	2	2	(講)		○				○				
		1GGC008	基礎有機化学	2	2	(講)		○	○					○		
		1GGC009	入門化学	2	2	(講)			○							
		1GGC010	基礎化学実験	4	2	(実)		○	○							
	生物学	1GGD001	生物学1	2	2	(講)	〈別途揭示〉	○								
		1GGD002	生物学2	2	2	(講)			○							
		1GGD003	生物学A	2	2	(講)		○		○						
		1GGD004	生物学B	2	2	(講)			○							
		1GGD006	生物学実験A	4	2	(実)		○								
		1GGD007	生物学実験B	4	2	(実)			○							
		地球学	1GGE001	地球学入門	2	2		(講)	〈別途揭示〉	○	○					
	1GGE002		地球学基礎A	2	2	(講)	○									
	1GGE003		地球学基礎B	2	2	(講)		○								
	1GGE004		地球学実験A	4	2	(実)	○									
	1GGE005		地球学実験B	4	2	(実)		○								
	1GGE006		地球学実験C	2	1	(実)	○	○								
	情報学	1GGF001	情報システム概論	2	2	(講)	〈別途揭示〉		○				○			
		1GGF002	データベースと情報検索	2	2	(講)					○		○			
1GGF003		プログラミング入門A	2	2	(演)			○								
1GGF004		プログラミング入門B	2	2	(演)			○								

●学部・学科、学域・学類によって配当年次が異なるので、それぞれの『要覧』を確認してください。

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

IV. 履修に関するその他の情報



IV. 履修に関するその他の情報

1. Q&A

Q1. 『国際基幹教育機構 開設科目要覧』は、毎年発行されるものでしょうか。もしくは在学中使用するものですか？

A1. 本要覧は、入学時から学士課程在学中使用します。
なお、開設科目については今後、開講期の変更等が生じる可能性があるため、本要覧には、2026年2月1日時点で開講が予定されているものを掲載しています。変更がある場合は学生ポータル (UNIPA) 等に掲載しますので、注意して確認するようにしてください。

Q2. 主な学びのキャンパスは杉本ですが、森之宮と中百舌鳥で開講されている科目を履修したい場合、どうすればよいでしょうか？

A2. 原則、森之宮キャンパスの授業を履修してください。

なお、基幹教育科目を再履修する場合、森之宮キャンパスに行かなければ履修できないことがありますので、詳細は学生ポータル (UNIPA) 又は授業時間割表を確認してください。

Q3. オンラインの授業であればキャンパスを移動する必要がないと思いますが、他キャンパスで開講される授業を履修できますか。

A3. 履修できます。

ただし、定期試験などを対面で行う授業において、キャンパス間移動の時間を確保できないと判断される場合、履修できません。

Q4. 外国語科目 (英語)、健康・スポーツ科学科目、情報科目等、クラス指定のある科目について、自分の所属する学部・学科、学域・学類以外のクラスを履修することはできますか？

A4. 所属の学部・学科、学域・学類に配当されたクラスのみ履修できます。
他のクラスは履修できません。

Q5. 基幹教育科目を3年次以降に履修しても問題ないですか？

A5. 問題ありません。ただし、2年次以降は専門科目の履修が中心となりますので、時間割表を確認しながら、計画的に履修してください。

なお、2年次以降に森之宮キャンパス以外が主な学びのキャンパスとなる学部・学域に所属する場合は、特に、1年次前期から計画的に基幹教育科目を履修してください。

Q6. 初修外国語について、週何回コースを選択するか悩んでいます。コース選択にあたってのポイントを教えてください。

A6. まずは P34[学部・学域ごとの配当コース]の表で自身の所属が、どのコースを履修できるか確認してください。コースを選択できる所属の場合は、『初修外国語履修ガイド』やオリエンテーション動画を参照してください。また、本要覧 P33～P34 も参考にしてください。

Q7. 初修外国語科目の入門初級履修免除制度について、免除された科目の代わりに中級科目の単位を修得して卒業要件を満たせば良いということですか？その場合、科目に指定はありますか？

A7. 入門初級履修免除制度とは、1年次の各コースに配当されている「入門」「初級」「基礎」「応用」科目の履修を免除し、よりレベルの高い内容の授業から履修できるという制度です。単位認定制度ではありませんので、卒業に必要な初修外国語の単位については、当該言語の「特修」科目等を履修することで修得してください。

Q8. 海外語学研修に参加するにはどうすればよいでしょうか。

A8. 海外語学研修は夏季休業や春季休業に開催する集中講義になります。学生ポータル (UNIPA) や学生Navi(授業・履修>大阪公立大学(学部・学域生)>海外語学研修)または授業等にて履修者の募集やガイダンスを通知しますので、よく確認するようにしてください。

2. キャンスマップ・フロアマップ

国際基幹教育機構開設科目の授業は、森之宮キャンパスで開講されます。キャンスマップ・フロアマップは右記QRコードや大学アプリ（OMU+）から確認できます。

学生ポータル（UNIPA）>リンク（画面左下）>キャンスマップからもアクセスできます。

3. 相談窓口

森之宮学務室教務担当

森之宮キャンパス 2階 06-6167-1005

メールアドレス mrny-las@ml.omu.ac.jp

大阪公立大学国際基幹教育機構

森之宮学務室教務担当